# 夢洲第2期区域マスタープラン Ver.3.0

大阪府・大阪市
令和8（2026）年6月

# はじめに

大阪府・大阪市（以下「府市」という。）では、大阪港に浮かぶ約390haの埋立地「夢洲」において、経済界とともに策定した「夢洲まちづくり構想」（平成29（2017）年8月策定）及び「夢洲まちづくり基本方針」（令和元（2019）年12月策定）に基づき、都心部にはない海に囲まれた立地条件や広大な土地を最大限に活かした国際観光拠点の形成に向けたまちづくりを進めています。

夢洲第1期区域（以下「第1期区域」という。）においては、令和5年4月に国の認定を受けた「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」に基づく統合型リゾート（IR）（以下「IR」という。）の整備に向けた取組が進められており、夢洲第2期区域（以下「第2期区域」という。）においては、IRと連携を図りながら、大規模なエンターテイメント・レクリエーション機能を導入することとしています。また、夢洲第3期区域（以下「第3期区域」という。）においては、埋立造成を進め、第1期区域・第2期区域の取組を活かした長期滞在型のまちづくりに取り組むこととしています。あわせて、観光外周道路や鉄道（コスモスクエア駅～夢洲駅間）など、夢洲の土地利用に必要なインフラ整備も進めています。

第2期区域においては、開発面積が約50haという広大なエリアであるため、第2期区域のまちづくりの方針（マスタープラン）を示すこととし、令和6（2024）年9月から開始した「夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集」において、民間事業者からまちづくりについての提案を受け付け、これらの提案の中から、令和7年1月に優秀提案2件を決定しています。

令和7（2025）年には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして、2025年日本国際博覧会（以下「万博」という。）が開催されて、世界中から2,900万人を超える人々が来場し、大屋根リングに体現される「多様でありながら、ひとつ」とのメッセージが発信されるとともに、人々のつながり、価値創造活動、共創の記憶といった成果が生まれました。このような成果を一過性のものとせず、レガシーとして後世に引き継ぎ発信するため、第2期区域では大屋根リングを一部残置し、その周辺エリアを記念公園として整備し、その他のエリアは、大阪市が実施する開発事業者募集において、静けさの森の樹木の利活用や万博を契機に創出された最先端技術やイノベーションに触れられる機能の導入などに取り組み、万博の跡地である「夢洲」において「場の記憶」を継承・展開することとしました。

本マスタープランは、優秀提案の内容を踏まえるとともに、万博レガシーの継承の在り方を整理し、これらを公民連携により取り組むまちづくりの方針として取りまとめています。

今後、本マスタープランに沿って開発事業者の募集を開始し、開発事業者を決定することとしており、第2期区域のまちづくりの効果を、臨海部をはじめとした周辺地域に波及させ、副首都の実現をめざす大阪において、成長・発展を先導する東西軸のニシの一大拠点の形成につながるよう、取り組んでまいります。

# はじめに

**夢洲まちづくり構想**　【平成29（2017）年 策定】

**夢洲まちづくり基本方針**【令和元（2019）年 策定】

【令和４（2022）年】夢洲第２期区域（大阪・関西万博跡地）に係るマーケット・サウンディングの実施

【令和６(2024)年９月】　夢洲第２期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集の実施
【令和７(2025)年１月】　２件の優秀提案の決定

【令和７(2025)年４月】「夢洲第２期区域マスタープランVer.1.0」の策定

【令和７(2025)年５月～９月】　「大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会」

【令和７(2024)年10月】「夢洲第２期区域マスタープランVer.2.0」の策定

【令和７(2025)年12月～令和８(2026)年４月】　「2025年日本国際博覧会　成果検証委員会」

優秀提案の内容を踏まえるとともに、万博レガシーの継承の在り方を整理し、マスタープランをとりまとめ

【令和８(2026)年春頃】「夢洲第２期区域マスタープランVer.3.0（案）」の作成

パブリック・コメント

「夢洲第２期区域マスタープランVer.3.0」の策定

夢洲第２期区域　開発事業者募集の開始

優秀提案者ヒアリング

# 目次

夢洲全体


## 1．夢洲のまちづくりの経緯と状況

（1）夢洲のまちづくりの経緯
① 夢洲のまちづくりの経緯
② 夢洲まちづくり構想（平成29(2017)年８月）
③ 夢洲まちづくり基本方針（令和元(2019)年12月）
（2）夢洲のまちづくりの状況
1）基盤整備
① 夢洲アクセス鉄道　② 道路ネットワーク（夢洲・舞洲）
③ 係留施設
2）土地利用
① 夢洲第１期区域　統合型リゾート（ＩＲ）
② 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）


夢洲第2期


## 2．夢洲第２期区域まちづくりの考え方

（1）対象地
（2）コンセプト
（3）まちづくり方針

## 3．土地利用方針

《土地利用計画（ゾーニング）》

## 4．都市空間形成方針

（1）まちの骨格の形成
（2）上質な非日常空間の形成
（3）水とみどりあふれる空間形成
（4）魅力ある景観の形成


夢洲第2期


## 5．基盤整備計画

（1）道路ネットワークの形成
《観光外周道路（南側）》
《区域内道路》
（2）歩行者動線ネットワークの形成
《整備の方針》
（3）円滑な地区内等移動手段の確保
《整備の方針》

## 6．万博レガシーの継承と発信

《夢洲での取組》
《第２期区域での取組》
（1）ハードレガシー
① 記念公園の整備（大屋根リングの利活用 ）
② 静けさの森の樹木の利活用
③ 大阪ヘルスケアパビリオンの利活用
（2）ソフトレガシー
① 取組例（ⅰ.健康医療　ii.モビリティ　iii.環境　iv.スマートシティ　v.夢洲コンストラクションの継承）

## 7．まちづくりＤＸ・ＧＸの推進

（1）安全・安心なまちの実現
（2）快適性・利便性の高いサービスの提供
（3）環境技術を活用した持続可能なまちの実現

## 8．エリアマネジメントの推進

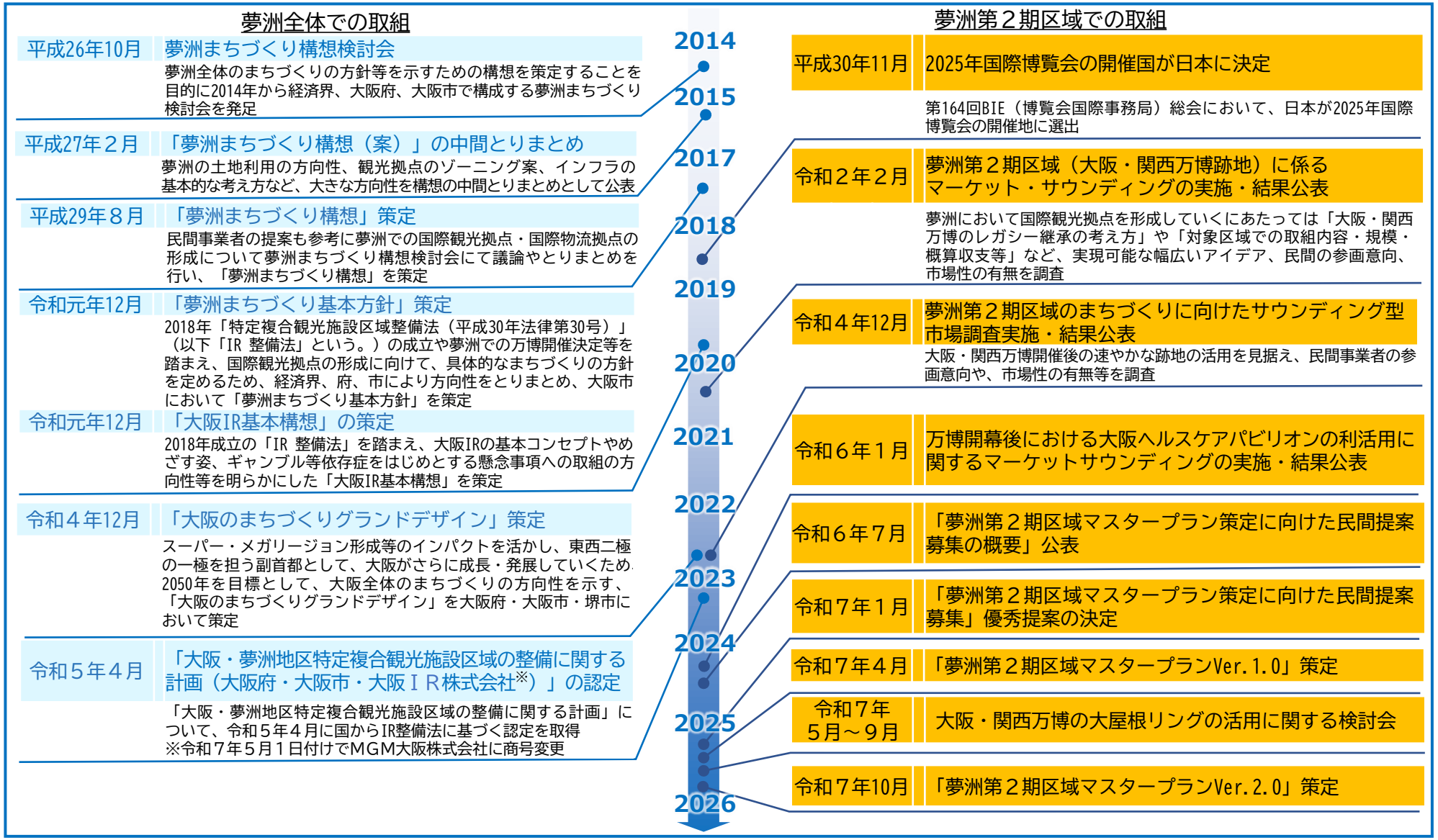
《エリアマネジメントの推進に向けた取組》

## 9．参考資料

# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## （1）夢洲のまちづくりの経緯

### ① 夢洲のまちづくりの経緯



# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## （1）夢洲のまちづくりの経緯

### ② 夢洲まちづくり構想（平成29(2017)年８月）

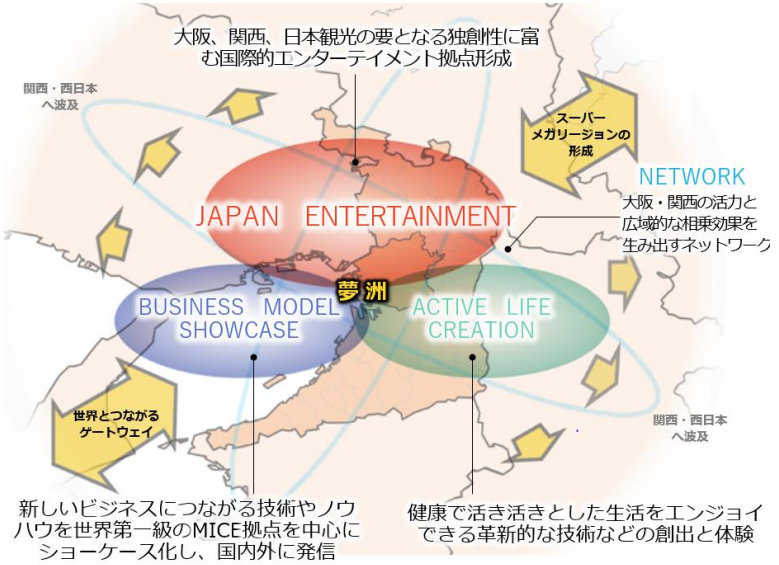
府市・経済界の共同により、夢洲地区での観光拠点の形成など新たな機能を盛り込んだ夢洲全体のまちづくりや土地利用等に関する方針としてとりまとめ

**夢洲まちづくり構想**

**コンセプト**

**Ｓｍａｒｔ　Ｒｅｓｏｒｔ　Ｃｉｔｙ**
**夢と創造に出会える未来都市**

**拠点形成のための都市機能**




**JAPAN ENTERTAINMENT**
大阪・関西・日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテイメント拠点形成

**BUSINESS MODEL SHOWCASE**
新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級のMICE拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信

**ACTIVE LIFE CREATION**
健康で活き活きとした生活をエンジョイできる革新的な技術などの創出と体験

**まちづくりの方針**

**土地利用**：世界で存在感を発揮する まちづくり

**都市基盤**：確かな技術に支えられたスマートなまちづくり

**環境共生**：地球・自然環境共生とスマート技術の融合による先進的で快適な環境形成

**空間デザイン**：アーティスティックなデザイン、上質で快適な空間構成

出典：夢洲まちづくり構想

## （1）夢洲のまちづくりの経緯

### ③ 夢洲まちづくり基本方針（令和元(2019)年12月）

「ＩＲ整備法」の成立や夢洲での万博開催決定等を踏まえて、府市・経済界の共同により、国際観光拠点の形成に向けた具体的なまちづくりの方針としてとりまとめ

**夢洲まちづくり基本方針**

**SMART RESORT CITY の方向性**

・夢洲では、「リゾート」と「シティ」の要素を融合させた空間を形成し、「スマート」な取組によって、まち全体の連携を高度化し、国際観光拠点機能の強化を図る。
・夢洲で万博が開催されることを踏まえ、その意義や理念を活かしたまちづくりをめざす。

**土地利用の方針**

**第１期区域　統合型リゾート(ＩＲ)を中心としたまちづくり**

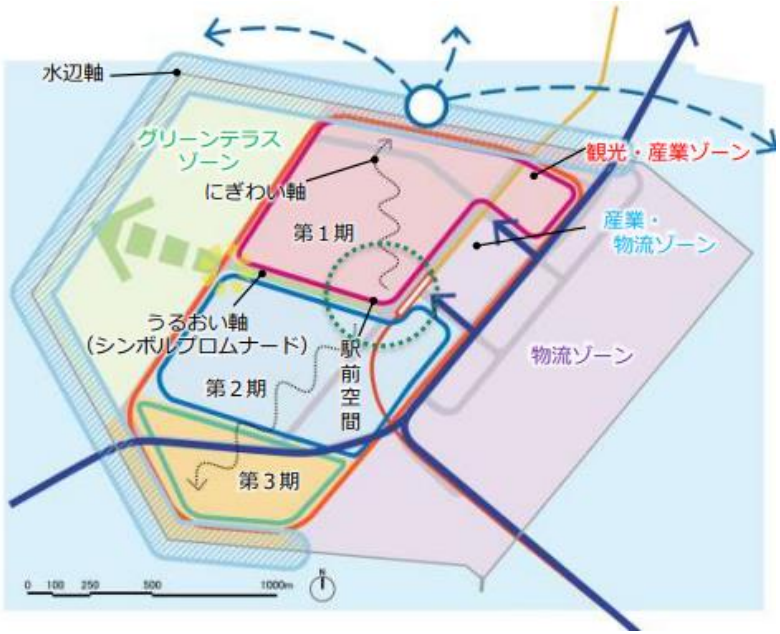
- 夢洲に行くことでしか体験し得ない多様なエンターテイメント機能の集積
- 関西・日本が育んできた和の文化・芸能等に国内外からの来訪者が触れることができる施設やコンテンツ・サービスを導入
- 競争力の高い大規模展示場や会議場などを整備し、都市力向上や産業振興に資する大規模展示会や国際会議等への対応力を強化

**第２期区域　万博の理念を継承したまちづくり**

- 国際観光拠点にふさわしい大規模で、統一されたコンセプトに基づくエンターテイメント機能やレクリエーション機能の導入を図ることで国際観光拠点の強化及び更なる集客
- 第１期の導入機能との連続性を確保するとともに、大阪が強みを有する産業（健康・医療産業など）や研究機関の研究成果などに来訪者が気軽に接することができるショーケースや最先端技術の実践・実証の取組や、様々な都市データの収集・構造化・オープン化・分析を行い、そのデータを活用した様々なプロジェクトを創出するスマートシティプラットフォームの構築など、万博理念を継承する取組を展開
- 整備にあたっては、万博計画と跡地計画の整合を図り、相互に効率的な整備

**第３期区域　第１・２期の取組を活かした長期滞在型のまちづくり**

- 海に隣接した立地特性を活かすとともに、第１・２期において導入された来訪者の利便性の向上に資する最先端技術等を取り入れた施設やサービスにより、生活の質（QOL）を高め、非日常空間を感じ、ゆとりある滞在時間を過ごせる上質なリゾート空間を創出




出典：夢洲まちづくり基本方針

# 1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況

## （２）夢洲のまちづくりの状況

【交通アクセス】

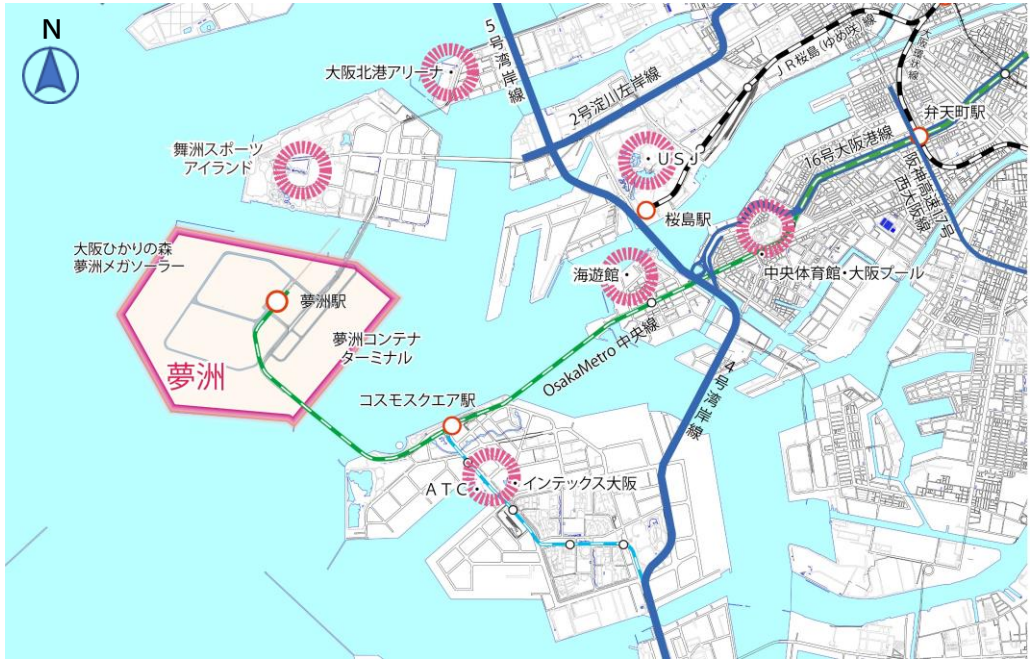
- 都心や周辺都市へ続く高速道路ネットワークが整備されている。
- 概ね30km圏内に、関西国際空港、大阪国際空港（伊丹空港）、神戸空港の３つの空港が立地している。
- 令和７(2025)年１月にOsaka Metro中央線が夢洲まで延伸し、南側からの地下鉄によるアクセスが可能となった。また、北側からの鉄道アクセスについても、関係者とともに事業化に向けた検討を進めている。

【周辺施設】

- 夢洲周辺の大阪臨海部には、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®（以下「ＵＳＪ」という。）や海遊館などの観光資源が立地。
- 舞洲には野球場・アリーナなどの スポーツ施設が立地。
- 大阪港（天保山客船ターミナル）にはクルーズ客船が発着し、咲洲には中国・韓国と結ぶ国際フェリー、四国・九州と結ぶ国内フェリーの定期便が就航。

【夢洲地区】

- 東側には、国際コンテナターミナルが立地しており、大阪・関西の物流機能の中心的役割を担う国際物流拠点を形成。
- 西側区域は、メガソーラーが立地するなど環境・新エネルギーの拠点として稼働。
- 第１期区域では、「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」に基づいたＩＲの整備に向けた取組が進捗中。
- 第２期区域などにおいて、令和７(2025)年４月から10月まで「万博」が開催。




出典：国土地理院　基盤地図情報ビュアー作成ベース図（2025.1.24）を加工

## （2）夢洲のまちづくりの状況

### 1） 基盤整備　　① 夢洲アクセス鉄道

- 令和７(2025)年１月に南ルート（Osaka Metro中央線）が開通し、大阪市内から地下鉄でのアクセスが可能となった。
- 北ルートの整備に向けて、有識者等による「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」において優位性が確認された検討路線について、現在、夢洲の開発による需要等を踏まえて、関係者とともに事業化に向けた検討の深度化を進めている。

#### ⅰ．夢洲アクセス鉄道【北港テクノポート線 南ルート（Osaka Metro中央線延伸）】

- 大阪港港湾計画等に基づく臨海部の開発に伴う交通需要に対応するために計画された、咲洲、夢洲、舞洲を経由し、在来臨海部及び都心部を結ぶ路線。
- 咲洲～夢洲間が、令和７(2025)年１月に開通。

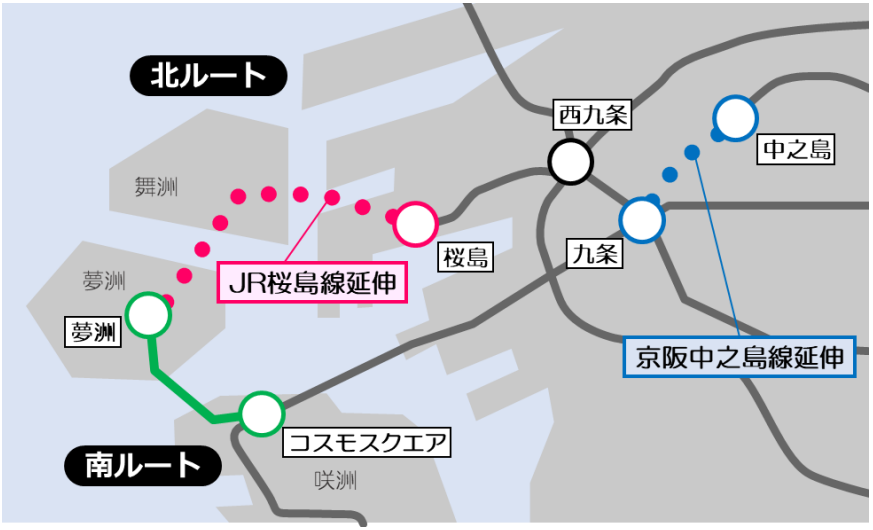
**【Osaka Metro中央線延伸部　概要】**
総延長7.5km（コスモスクエア～新桜島)の内、南ルート3.2km（コスモスクエア～夢洲）

#### ⅱ．夢洲アクセス鉄道

- 令和６(2024)年11月から「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」を開催。
- 国の答申路線（中之島～西九条～新桜島～舞洲～夢洲）と、京阪中之島線延伸（中之島～九条）及びＪＲ桜島線延伸（桜島～舞洲～夢洲）からなる検討路線について、費用対効果や収支の面で、検討路線が優位であることを確認（令和７(2025)年８月結果公表）。

**「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」における検討対象路線**

１）答申路線　（中之島～西九条～新桜島～舞洲～夢洲）
２）検討路線　・ＪＲ桜島線延伸（桜島～舞洲～夢洲）
　　・京阪中之島線延伸（中之島～九条）




【夢洲駅】
〇夢洲駅構造：地下２階構造（地下１階：コンコース、地下２階：ホーム）
〇コンコースの通路幅：17メートル
〇改札：16基（2025大阪・関西万博開催時）
〇ホーム延長：160メートル　〇ホーム幅：10メートル（最大）

## （2）夢洲のまちづくりの状況

### 1） 基盤整備　② 道路ネットワーク（夢洲・舞洲）

- 道路アクセスは、舞洲から夢舞大橋、咲洲から夢咲トンネルを経由する２つのルートとなっている。
- 万博に併せて、此花大橋や夢舞大橋の車線数の増加や、夢洲・舞洲において高架橋の整備等を行い、アクセス機能が強化された。

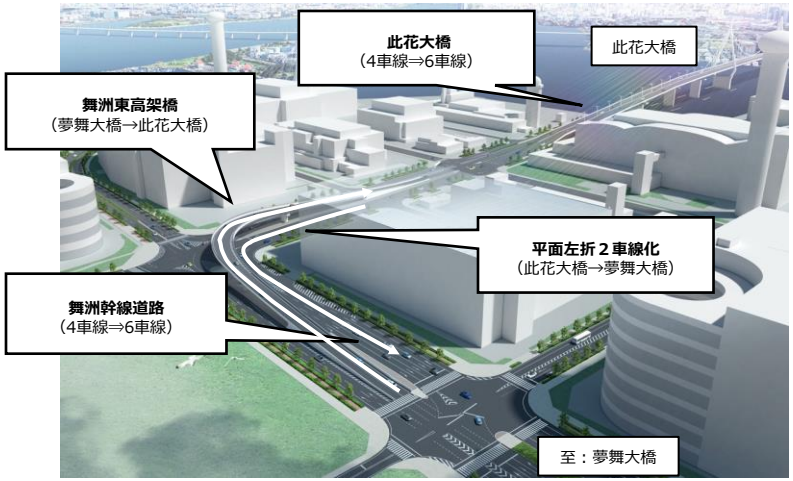
#### ⅰ．アクセス機能の強化

此花大橋や夢舞大橋の車線数を増加させ、阪神高速道路からのアクセス機能を強化。

＜此花大橋＞
令和４(2022)年に４車線から６車線に増加。万博閉幕後は歩道を整備。

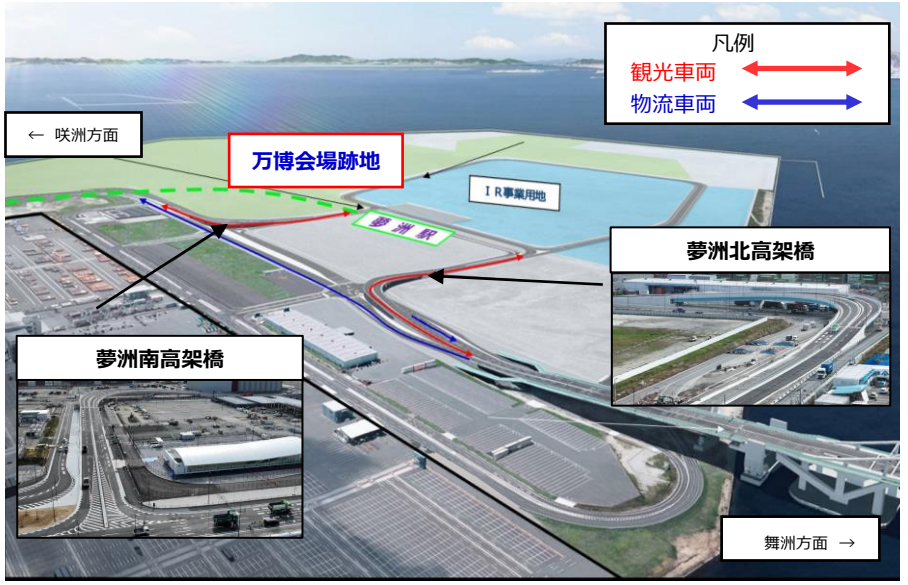
＜舞洲東交差点高架橋等＞
夢舞大橋から此花大橋に向かう北行きの右折２車線を立体交差化することにより、右折車両の円滑な交通動線を確保するとともに、舞洲幹線道路を４車線から６車線に増加。

＜夢舞大橋＞
通行の円滑化のため、令和４(2022)年に４車線から６車線に増加。




#### ⅱ．物流車両と観光車両の分離

物流車両と観光車両の動線を分離するため、夢洲内（夢洲中央幹線）の２つの交差点部に高架橋を整備している。夢洲に来訪した観光車両は、この高架橋経由で、観光外周道路へアクセス可能。



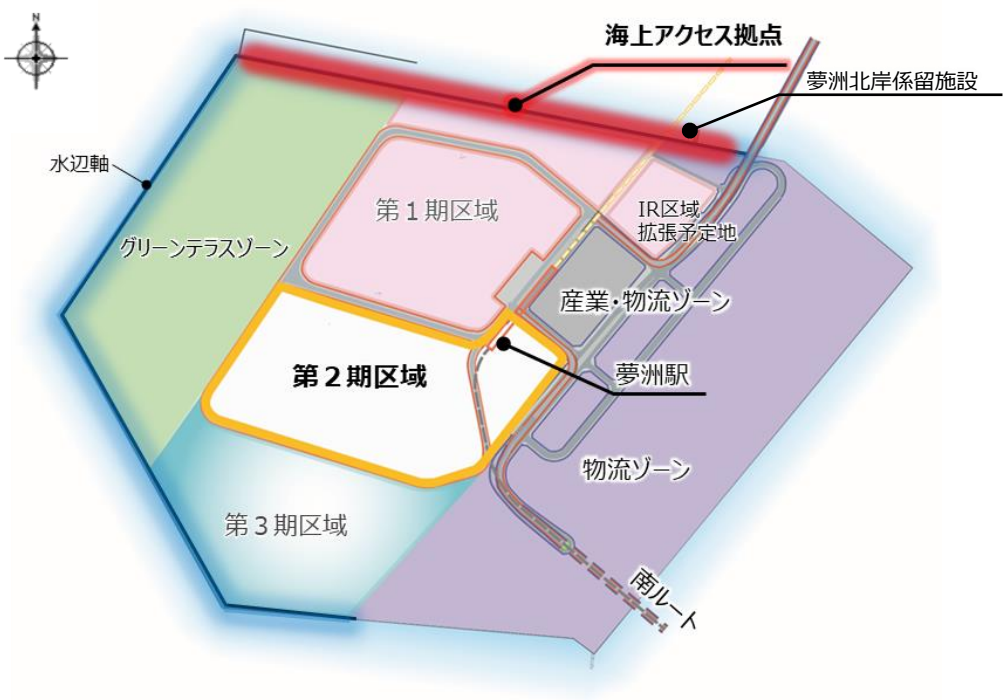
## （2）夢洲のまちづくりの状況

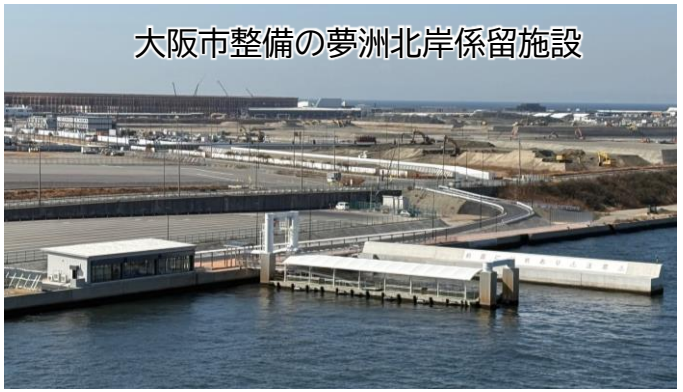
### 1） 基盤整備　　③ 係留施設

- 周囲を海に囲まれた立地特性をふまえ、海上アクセス拠点を北側水際線に整備し、来訪者の利便性の向上及び集客力の強化を図る。
- 国際観光拠点の形成に向けて、多様なアクセス手段の確保をめざしており、係留施設を活用した水上交通の活用を検討している。

### ⅰ．海上アクセス拠点の強化

- 魅力ある国際観光拠点として、夢洲の立地を活かし、国内外と結ぶクルーズ客船や、近傍の集客施設と結ぶ小型客船などによる、海上アクセスの強化をめざす。
- 水上交通と連携して、大阪全体の水上交通網の拡充を図る。



## （2）夢洲のまちづくりの状況

### 2）土地利用　① 夢洲第１期区域　統合型リゾート（ＩＲ）

**大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画（区域整備計画）**

- 令和４(2022)年４月に認定の申請を行った区域整備計画について、ＩＲ整備法第９条第11項の規定に基づき、令和５(2023)年４月に国土交通大臣より認定
- 日本最大級のオールインワン型のＭＩＣＥ施設（国際会議場施設及び展示等施設）、大阪・関西・日本の魅力を強力に発信する魅力増進施設、バスターミナル及びフェリーターミナルを含む送客施設、総客室数約2,500室を有する宿泊施設、カジノ施設等から成る統合型リゾート

**○コンセプト**

“結びの水都”
- 大阪・関西を世界とつなぐゲートウェイ
- ここにしかない最高のエンターテイメント
- 未来を創出するイノベーション
- 大阪の発展を象徴する水

**○ビジョン**

“WOW”　Ｎｅｘｔ
- 特徴的な建築やマスタープラン
- 世界トップクラスのエンターテイメント
- 最高級の宿泊施設
- 日本最大級のＭＩＣＥコンプレックス

**○効果**

| | |
|---|---|
| ＩＲ区域への来訪者数 | 約2,000万人/年 |
| 初期投資額 | 約1兆5,130億円 |
| 経済波及効果（運営）※ | 約1兆1,400億円/年 |
| 雇用創出効果（運営）※ | 約9.3万人/年 |
| 雇用者数（ＩＲ施設） | 約1.5万人 |

※近畿圏

**○ゾーニングと配置計画**

**○事業工程**

- 令和７(2025)年春　　ＩＲ建設工事の着手
- 令和12(2030)年秋頃　　ＩＲ施設の開業

※工程が最も早く進捗した場合の想定

## （2）夢洲のまちづくりの状況

### 2）土地利用　　② 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）

#### 開催概要

○テーマ　いのち輝く未来社会のデザイン
○サブテーマ　Saving Lives（いのちを救う）　Empowering Lives（いのちに力を与える）
Connecting Lives（いのちをつなぐ）
○開催期間　令和７(2025)年４月13日（日曜日）～10月13日（月曜日）
○事業コンセプト　People’s Living Lab（未来社会の実験場）
○開催実績　184日間の会期を通じて約2,902万人（AD証入場者を除くと約2,558万人）が来場

提供：２０２５年日本国際博覧会協会

#### テーマ事業

「いのち輝く未来社会」の姿を立体的に描き出すために、8つのテーマを設定

**いのちを知る**
生命系全体の中にある私たちのいのちの在り方を確認する。

**いのちを育む**
宇宙・海洋・大地に宿るあらゆるいのちのつながりを感じ、共に守り育てる。

**いのちを守る**
危機に瀕し、人類は「分断」を経験する。「わたし」の中の「あなた」を認めるいとなみの行方に、多様ないのちが、それぞれに、護られてゆく未来を描く。

**いのちをつむぐ**
自然と文化、人と人とを紡ぐ「食べる」という行為の価値を考え、日本の食文化の根幹にある「いただきます」という精神を発信する。

**いのちを拡げる**
新たな科学技術で人や生物の機能や能力を拡張し、いのちを広げる可能性を探求する。

**いのちを高める**
遊びや学び、スポーツや芸術を通して、生きる喜びや楽しさを感じ、ともにいのちを高めていく共創の場を創出する。

**いのちを磨く**
自然と人工物、フィジカルとバーチャルの融和により、自然と調和する芸術の形を追求し、新たな未来の輝きを求める。

**いのちを響き合わせる**
個性あるいのちといのちを響き合わせ、「共鳴するいのち」を共に体験する中で、一人ひとりが輝くことのできる世界の模式図を描く。

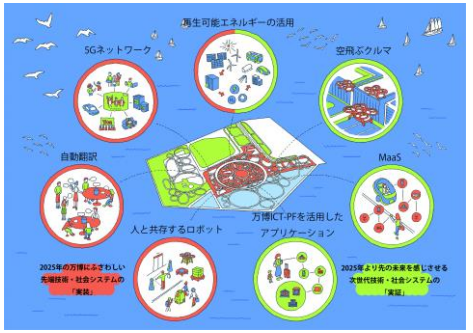
#### 未来社会のショーケース事業

万博会場を未来社会のショーケースに見立て、先端的な技術やシステムを取り入れることで、未来社会の一端を実現することをめざす。
「People’s Living Lab（未来社会の実験場）」というコンセプトに基づき「Society5.0実現型会場」を創造

**テーマ1「会場設計」**
・チケッティング、MaaS（マース）、自動運転等の各種サービスを連携させる情報通信共通基盤の導入等

**テーマ2「環境・エネルギー」**
・カーボンニュートラル、エネルギーを最適化する技術、水素エネルギー技術のショーケースとしての導入

**テーマ3「移動・モビリティ」**
・公共交通や会場内のモビリティ、チケット購入等の検索・予約・決済等や、会場内の情報等アプリにより提供
・空飛ぶクルマによる移動体験



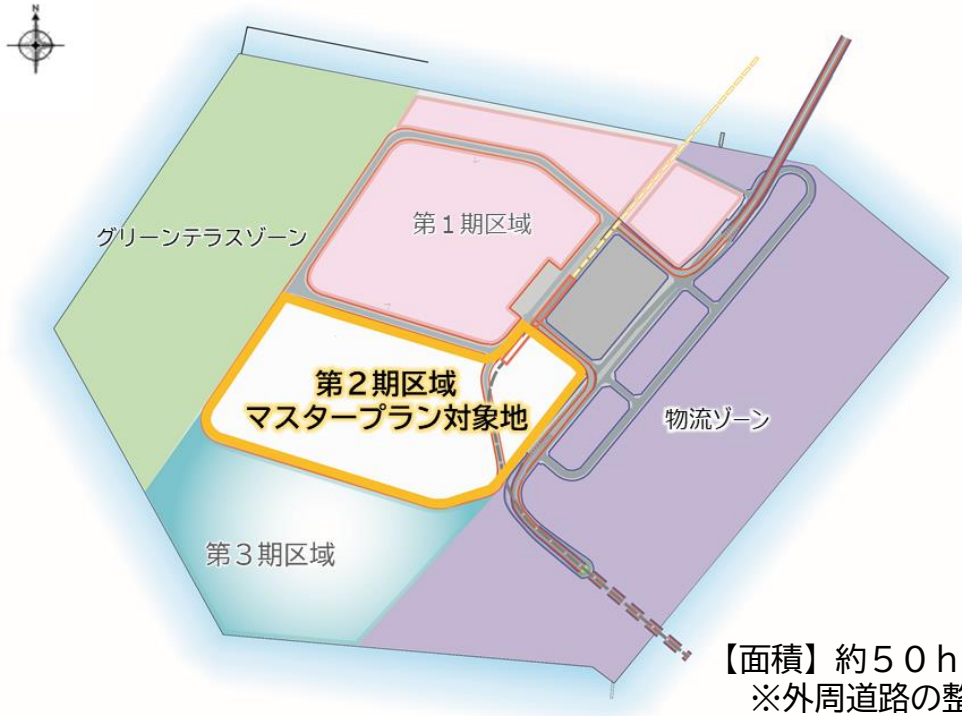

Society5.0実現型会場イメージ
提供：２０２５年日本国際博覧会協会

**テーマ4「情報通信・データ」**
・高速・大容量、低遅延、多数同時接続の５Ｇ等ネットワークの整備を進めるほか、技術の進展に伴う新たな技術要素の導入を目指す。

**テーマ5「会場内エンターテイメント」**
・リアルとバーチャルの融合を活用した、未来のエンターテイメントの実現を目指す。

# 2. 夢洲第2期区域のまちづくりの考え方

## （1）対象地




【面積】約５０ｈａ※
※外周道路の整備面積を含む。

## （2）コンセプト

*万博の理念を継承し、国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくり*

# 2. 夢洲第2期区域のまちづくりの考え方

## （3）まちづくり方針

### ① エンターテイメントシティの創造

- エンターテイメントやレクリエーション等の多様な機能を導入し、第１期区域との相乗効果を図る。さらに新産業創出や人材育成等の機能の導入に加え、万博の理念を継承する最先端技術等を体感できる環境整備などにより国際観光拠点機能を強化。
- 広大な開発区域を活かして、豊かな水・みどりと上質なにぎわい等が一体となった魅力あふれる「非日常」を感じる空間を創出するとともに、最先端技術の実装・イノベーションの実現により、来訪者が憩い・安らぎながら時間を過ごし、再び訪れたくなるまちを形成。

### ② SDGsの実現に向けた未来都市の創造

- カーボンニュートラル、都市の自然生態系の形成等の環境対策により、ＳＤＧｓの実現に向けた未来都市を創造
- 周辺区域と連携しながら、多種多様なプロジェクトを創出するためのプラットフォームの構築や、魅力にあふれ安全安心なまちの実現に向けたエリアマネジメント組織の組成による持続的なまちの価値向上・活性化

### ③ 最先端技術の実証･実践･実装

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした大阪・関西万博の理念を継承し、次世代技術の実証や未来社会のショーケースである万博で実施された最先端技術を実践、さらには、実装に向けた取組を実施

# 3. 土地利用方針

【基本的な考え方】

- 広大な土地を活かしたスーパーブロックによる土地利用を実現し、隣接する第１期区域との連携・相乗効果による更なる「非日常」を提供する。
- 第２期区域の一体的なまちづくりのため、ゾーン相互間での機能連携や連続した動線計画を実現する。また、隣接する区域やゾーンの境界部分は、適切に水・みどりや広場・歩行者空間等を配置し、一体性・連続性を確保した土地利用とする。
- 国内外からの幅広い集客力を有する大規模なエンターテイメントやレクリエーション機能等の導入を図るとともに、大阪が強みを有する産業や研究の拠点機能や展示機能、その他国際観光拠点の形成に寄与する機能の導入を図る。
- 万博レガシーや夢洲の立地特性を活かしたアメニティ高い空間を創出するため、水・みどりに親しめる空間を適切に配置する。

# 3. 土地利用方針

## 《土地利用計画（ゾーニング）》

### ① ゲートウェイゾーン

- 夢洲の玄関口として、人・モノが交流し、来訪者に高揚感（ワクワク感）・期待感を与えるにぎわい機能や交流機能等の導入
- 夢洲の立地特性を活かしたナイトアクティビティや、他では経験できない体験（ガストロノミー体験など）が可能な機能等の導入
- 大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンや記念公園ゾーンに導入される機能と連携した大阪が強みを持つ産業・研究の拠点機能や展示機能、万博を契機に創出される最先端技術やイノベーションに触れられる機能等の導入
- 来訪者の交流や回遊の拠点となる広場の整備

### ② グローバルエンターテイメント・レクリエーションゾーン

#### ②－１ スーパーアンカーゾーン

- 世界中の人々をひきつけ、ここでしか体験できない「非日常空間」を創出する大規模で統一されたコンセプトに基づくとともに、多くの人に開かれ環境に配慮したエンターテイメント機能やレクリエーション機能の導入
- 水・みどりに楽しめる空間やオープンスペースなどの整備とともに、子供を対象としたアクティビティなど、ファミリーで楽しめる機能等の導入
- 地区内の来訪者の回遊性を高める、交流ゾーン、ＩＲ連携ゾーン、記念公園ゾーンと連携した機能の導入

#### ②－２ 交流ゾーン

- ゲートウェイゾーンからの人の流れ、にぎわいをスーパーアンカーゾーンや記念公園ゾーン等の隣接するエリアへつなげるハブ拠点の形成
- 人・情報の交流を促し、にぎわいを創出する展示・交流機能やレクリエーション機能等の導入

### ③ ＩＲ連携ゾーン

- 隣接する第１期区域（ＩＲ区域）や記念公園ゾーンと連携することにより相乗効果を高める機能の導入

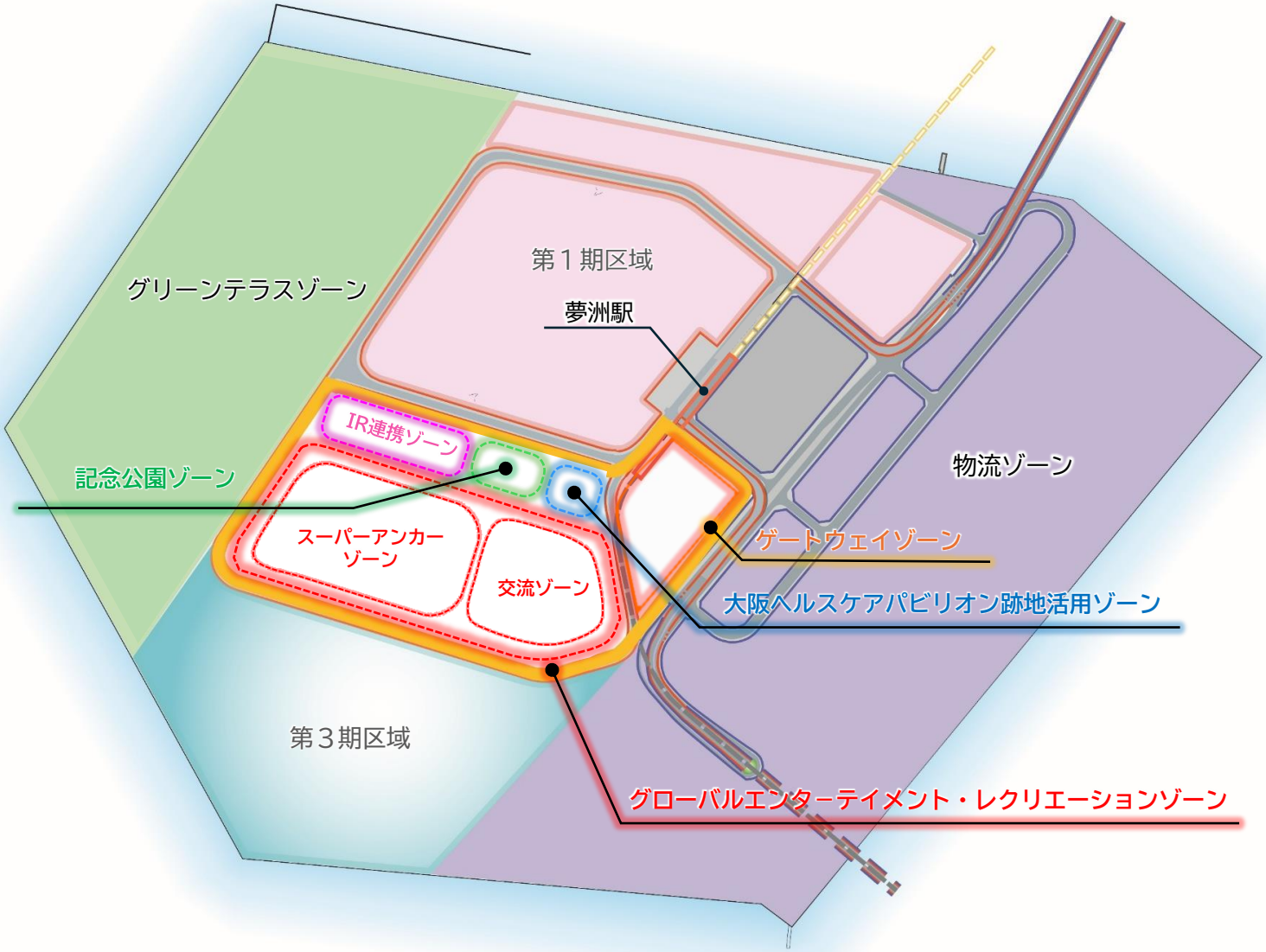
### ④ 大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーン

- ヘルスケアパビリオンの取組を継承するため、先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能を導入
- 記念公園ゾーンと連携し、残置または移築するパビリオンの一部と一体となったにぎわい機能を導入

### ⑤ 記念公園ゾーン

- 万博レガシーをわかりやすく継承するため、万博会場のシンボルであった大屋根リングと一体となったみどりに親しめる空間の整備
- 万博で披露された最先端技術の発信、ビジネスや文化等の交流を通じて地方創生や産業振興に取り組む

《土地利用計画（ゾーニング図）》



# 4．都市空間形成方針

**【基本的な考え方】**

- 多様な用途・高質なデザインの建築物や水・みどりあふれる空間、万博のハードレガシーなどが相互に機能的･空間的に連携することで、夢洲でしか実現・体験できない「非日常」を演出する空間を創出する。
- 歩いて楽しめる賑わいのある空間や、大屋根リングの跡地付近において大屋根リングの記憶を想起させる空間などの形成をめざし、区域内の回遊性・利便性の向上などに配慮するとともに、万博を契機とする新たな技術やサービス等の実証・実践の場としての活用にも配慮する。
- 世界に誇れる大阪のランドマークとなるシンボル的な都市景観を形成するため、アイコニックな建築物を整備する。また、まちの骨格となる街路や記念公園だけでなく、空・海などからの視点を意識した施設配置とする。さらに、水辺空間を活かした象徴的で魅力ある夜間景観を形成する。
- 隣接する区域の施設にも配慮し、隣接街区と調和のとれた景観や機能を形成する。

## （1）まちの骨格の形成

### ① うるおい軸

- 駅前から水辺軸（大阪湾）へ直線的かつ開放的な眺望を確保するとともに、水・みどりを効果的に配置した「うるおい軸」を形成。
- 夢洲駅から西へ伸びるシンボルプロムナードは水・みどりあふれる空間として、第１期区域と統一感のある景観形成に努める。また、沿道建築物の壁面後退により確保する敷地内のパブリックスペースにより連続したオープンスペースを確保し、水・みどりに親しめる空間の整備などによって歩道と一体となった、ゆとりとうるおいのある歩行者空間の創出を図る。

### ② にぎわい軸

- 駅前から第２期区域内の各ゾーンを結び、将来的には第３期区域に至る、にぎわいを創出する歩行者の主動線として「にぎわい軸」を形成。
- 記念公園ゾーンから各ゾーン、静けさの森の樹木を活用した緑地等を結び、水とみどりなどで構成された居心地の良いにぎわい軸を形成。
- 「にぎわい軸」に面する建築物の低層部には商業機能等を導入するとともに、イベントスペースとなるたまり空間の配置や低層部のデザインの工夫などにより、水・みどり空間とにぎわいが融合した個性豊かなまちなみを創出し、歩いて楽しい歩行者空間の形成を図る。

うるおい軸・にぎわい軸のイメージ

# 4．都市空間形成方針

## （2）上質な非日常空間の形成

- 都心部にはない広大な土地を最大限活かしたゆとりのある建築物や道路などの施設配置とともに、豊かな水・みどりを適切に配置した上質な憩い・やすらぎ空間の整備などにより、第１期区域との連携・相乗効果による、夢洲でしか体験できない非日常を演出する都市空間の形成を図る。
- 夢洲駅前には、人のにぎわい交流・憩いの場となる、水・みどりあふれるオープンスペース（広場等）を整備し隣接する建築物等と一体で、駅に降り立った人が、高揚感・期待感を感じる第２期区域の玄関口にふさわしい空間を創出する。
- 広場や歩行者空間などの公共的空間についても、非日常を演出する場として積極的な利活用を図る。

## （3）水とみどりあふれる空間形成

- まちの骨格や建築敷地内のパブリックスペースにおいて、ＳＤＧｓの達成に向けた環境共生（都市の自然生態系の創出など）などに配慮しながら、適切に水・みどりを配置し、うるおい・憩いを享受できる空間の形成を図る。
- 敷地内の歩行者空間は、周辺施設との一体性や記念公園ゾーン、静けさの森の樹木を活用した緑地等との連続性にも配慮しながら、にぎわいと融合した水・みどり空間の形成を図る。
- 建築物の中低層部の屋上や壁面などにおいても立体的にみどりを創出し、地上部の水・みどりと一体となった空間を形成する。

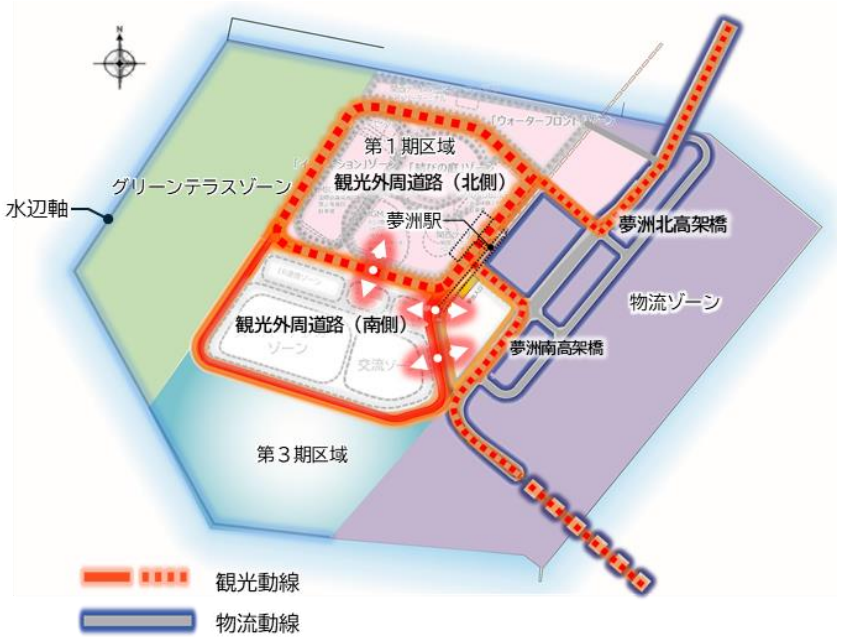
## （4）魅力ある景観の形成

- 第１期区域とともに世界に誇れる大阪の新たな象徴となる都市景観を形成するため、アイコニックで個性豊かなデザインの建築物を整備する。また、まちの骨格となる街路や記念公園だけでなく、空からの視点など様々な視点場からの見え方を意識したランドスケープ等を創出する。
- 歩行者空間については、適切に水・みどりに親しめる空間やポケットパーク等を配置し、建築物等のデザインと周辺のまちなみとの調和が取れた歩いて楽しい景観形成を図る。
- 大屋根リングの跡地付近においては、大屋根リングの記憶を想起させる空間などの形成をめざす。
- 隣接する他の区域やゾーンの境界部分は、適切に水・みどり、広場・歩行者空間等を配置し、一体性を確保した調和のとれたまちなみを形成。
- 水辺空間や建物ファサード等のライトアップなど人々を魅了するフォトジェニックな光景観を創出し、国際観光拠点にふさわしい魅力的な夜間景観を形成する。
- 第１期区域と第２期区域をつなぐ高質なデザインの立体横断施設を整備するとともに、立体横断施設上などから大阪湾を望むシンボリックな眺望を確保するため、シンボルプロムナード沿道のまちなみ形成を図る。また、万博開催時に大屋根リングから眺むことができた夕陽や大空の視認性の確保に努めることとする。

## （1）道路ネットワークの形成

**【基本的な考え方】**

- 夢洲の自動車交通については、安全性の向上及び交通の円滑化を図るため、高架橋の整備等により観光動線と物流動線を分離しており、第２期区域には、高架橋及び観光外周道路を経由してアクセスする。
- 適切な交通処理を実現し、快適な移動に資するため、外縁部に既設の観光外周道路とつながる道路を整備する。
- 土地利用計画上、必要に応じて区域内に区画道路を整備する。
- 電線・電信類は地中化し、道路空間の安全性及び快適性を確保するとともに、国際観光拠点に相応しい良好な景観を形成する。
- 駐車場は、区域内における自動車交通処理に支障のないよう適正に配置するとともに、その出入口については、安全で快適な歩行者空間の形成を図るため、できる限り集約化する。
- 万博を契機に取り組まれた便利でスマートな次世代モビリティシステムの実証・実装のための空間を必要に応じて確保する。




### 《観光外周道路（南側）》

- ２期区域の自動車交通需要を適切に処理する車線数を設定する。
- 公共交通の優先化や、次世代モビリティの導入について必要に応じて検討する。
- 歩行者の道路横断は、立体的な動線分離を図ることにより、歩行者の安全性を確保する。

### 《区域内道路》

- 土地利用計画上、区画道路の整備が必要な場合においては、観光外周道路（北側及び南側）と安全かつ適切な位置で接続するとともに、区域内の移動の快適性・利便性向上につながる次世代モビリティシステムの導入を見据えた空間を確保する。

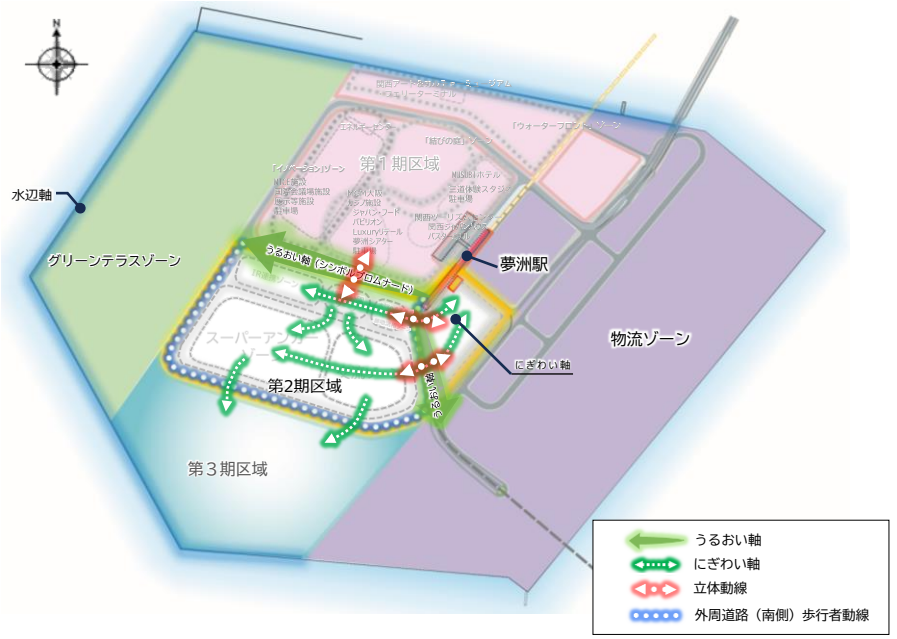
## （2）歩行者動線ネットワークの形成

**【基本的な考え方】**

- 夢洲全体での「万博レガシーの発信拠点」の実現に向け、記念公園ゾーンと第１期区域をつなぐとともに、将来的には第３期区域まで連続する回遊性の高い歩行者動線ネットワークを形成することにより、夢洲全体の一体性を確保する。
- 水・みどりやオープンスペース等を適切に配置するとともに、パーソナルモビリティの通行も見据えたゆとりある空間を形成することにより、歩行者が四季を通して安全で快適に通行することができる歩行者空間を形成する。
- 敷地内の通路などの歩行者空間は、周辺施設との一体性に配慮しながら、にぎわいと水・みどりが融合した空間を創出し、来訪者が楽しく、快適に回遊できる歩行者動線ネットワークを形成する。

### 《整備の方針》

- 敷地内の歩行者空間については、記念公園ゾーン、静けさの森の樹木を活用した緑地等との連続性にも配慮し、適切に水・みどりに親しめる空間を配置するとともに、イベントや憩いの空間となるポケットパークなどもあわせて整備することで、水・みどりとにぎわいが融合した歩いて楽しめる空間を創出する。
- シンボルプロムナード上に第１期区域と第２期区域をつなぐ立体横断施設を整備して、歩行者空間の連続性を確保する。この立体横断施設はうるおい軸の景観と調和し、シンボルプロムナードに相応しいものとなるよう、デザインにも配慮する。
- 歩行者動線ネットワークの結節点などに水・みどりを配置し、憩いやにぎわい創出の場となるよう配慮する。




各主要動線のイメージ

## （3）円滑な地区内等移動手段の確保

【基本的な考え方】
- 第２期区域のみならず夢洲全体の回遊性を高め、安全・安心で利便性の高い地区内移動を実現する。
- 夢洲内の安全・安心な移動を支える循環型交通モビリティや、回遊を促すパーソナルモビリティの導入を検討する。
- “Smart Mobility EXPO（スマートモビリティ万博）※”における未来社会の実験場として、夢洲で提供された最先端技術を活用した次世代モビリティや便利でスマートな新しい移動サービスなどの実装をめざす。
- 夢洲へのアクセス性の向上に向け、鉄道アクセス等について検討する。

### 《整備の方針》

- 利便性が高く、安全・安心な移動を可能とする交通システムの導入により、来訪者の回遊を促す。
- 導入するモビリティについては、万博の理念を継承し、最先端技術を用いて利用者に新たな移動体験を提供するとともに、カーボンニュートラルの実現に向けた取組に寄与するシステムの導入をめざす。
- 最先端技術を活用した多様なモビリティネットワークの結節点として円滑で快適な乗り換えを可能とする機能を駅前空間に導入する。
- 来訪者の夢洲内の移動利便性の向上や交流促進により国際観光拠点としての機能強化を図るため、第１期区域と連携しながら観光外周道路を巡回するモビリティの導入について検討する。
- 夢洲への鉄道アクセスに関しては、「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」で費用対効果などの観点から優位性が確認された路線について、夢洲まちづくりの動向を見極め、鉄道事業者等関係者と検討の深度化を図る。
- 新技術を活用したアクセス手段の導入可能性についても検討する。

― ※Smart Mobility EXPO（スマートモビリティ万博） ―

画像提供：関西電力・OsakaMetro

大阪・関西万博の未来社会ショーケース事業で設定されている6つの領域のひとつであり、カーボンニュートラルが実現された未来社会の姿を描き出すもの。
スマートモビリティ万博で実証・実践する次世代技術・先端技術・社会システムは以下のとおり

会場アクセスバス、アクセス船／会場内・外周バス／会場内パーソナルモビリティ／ロボットエクスペリエンス／空飛ぶクルマ　等

# 6．万博レガシーの継承と発信

【基本的な考え方】
- 大阪・関西万博では、世界中の国々から多くの人が集い、多様な文化・価値観が交流することによって新たな価値観が共有されるとともに、次世代技術・システム等の実証により様々な社会課題への解決が図られた。
- 開催地である夢洲が、万博で紹介された理念や技術、万博で生まれた様々な交流が大きく花開く場として発展することにより、万博レガシーを分かりやすく体感できることに繋げ、「いのち輝く未来社会」の実現に向けて先導的な役割を果たしていく。

**大阪・関西万博　開催の意義**

- いのち輝く未来社会へ
- Society5.0実現に向けた実証の機会
- ＳＤＧｓ達成・ＳＤＧｓ＋beyondへの飛躍の機会
- 日本の飛躍の契機に

**大阪・関西万博　理念の継承**

**①いのち輝く未来社会へ**
- 大阪・関西万博で示された“いのち輝く未来社会のデザイン”の理念を、跡地のまちづくりにおいても継承し、持続可能なまちの未来像の共創をめざす

**②ＳＤＧｓ達成・ＳＤＧｓ＋beyondへの飛躍の機会**
- 大阪・関西万博でのＳＤＧｓ達成に向けた取組を継承し、2030年やさらにその先を見据えた持続可能な開発を行い、万博開催都市として、都市格の向上をめざす

**③Society5.0実現に向けた実証の機会**
- 様々な課題解決をめざした大阪・関西万博での取組を継承し、大阪・関西万博終了後においても、引き続き行うまちづくりの中で、新たな技術やサービスが実証・実装された社会の実現をめざす

**④日本の飛躍の契機に**
- 万博跡地という強みを最大限に発揮し、認知度の向上・地域経済の活性化をめざし、世界中から人・モノ・投資を呼び込むことができる国際観光拠点の形成をめざす

# 6．万博レガシーの継承と発信

## 《夢洲での取組》

- ＭＩＣＥ機能などを有する第１期区域（ＩＲ区域）と第２期区域、第３期区域（将来）が連携し、万博開催地である夢洲をレガシー継承の先導的な役割を果たす「場」と位置づけ、夢洲全体で万博の記録や成果を日本・世界へ発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能の導入をめざす。
- 大屋根リングの跡地付近においては、大屋根リングの記憶を想起させるまちづくりをめざす。
- 万博レガシー継承の観点から第２期区域のみならず、その周辺も含めた一体的なまちづくりをめざす。

【第1期区域】

- 国際競争力を有するMICE施設の整備やICT等最先端技術を活用したスマートなまちづくりによる国際観光拠点を形成

【第2期区域】

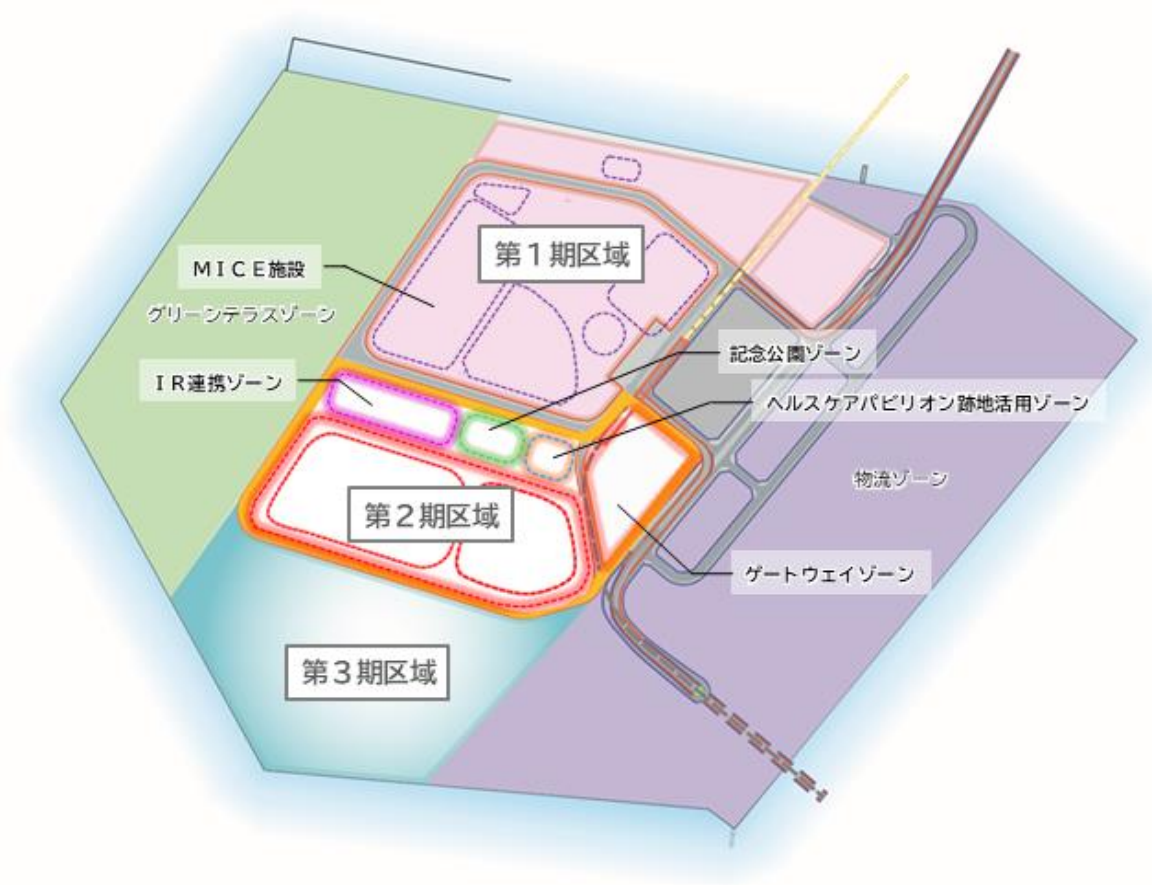
- 万博の理念継承し国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくり

【第3期区域】

- 第1・2期で創出された最先端技術等により、健康や長寿につながる長期滞在型の上質なリゾート空間を形成

【グリーンテラスゾーン】

- みどりあふれるオープンスペースや親水空間を形成し、中央部で展開されるエンターテイメント機能等と連携する機能を導入するなど、中央部と一体感のある国際観光拠点を形成



# 6．万博レガシーの継承と発信

## 《第２期区域での取組》

- 万博の成果である「つながり・交流の拡大、深化」、「新たな価値観への気づき・共有」、「新たな取り組みとして生み出した技術・システムの実証」などを継承し、環境に配慮しながら多くの人に開かれた、音楽、アートやスポーツなどを題材に国内外の若者の夢や心身を育むとともに、数多くの先進的技術に触れることができる取組を展開し、これらを日本・世界へ発信する。
- 記念公園ゾーンでは、これらの取組みを展開する「場」として、府市が中心となって、記念公園の整備・大屋根リングの一部残置・記念館の整備を行うこととし、最先端技術の発信、地方創生や産業振興に取り組む。
- あわせて、民間開発エリアでは、「静けさの森」の理念の継承に取り組むとともに、非日常空間の創出や、万博で実証された「未来社会の実現」に資する取組を条件とする公募を実施する。
- 大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンにおいて、開発事業者が、万博で取り組んだ先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る事業を実施するとともに、これらに係る情報発信に取り組む。

### 記念公園ゾーン（約2.9ha）

【記念公園】
○ みどりに親しめる空間を整備し、交流や出会いを促す「場」を創出
【大屋根リング】
○ 万博レガシーのシンボルとして、約200mを残置し展望台として改修
【記念館】
○ 万博の記憶や万博で披露された最先端技術の情報発信や、ビジネスや文化等の交流の場の創出

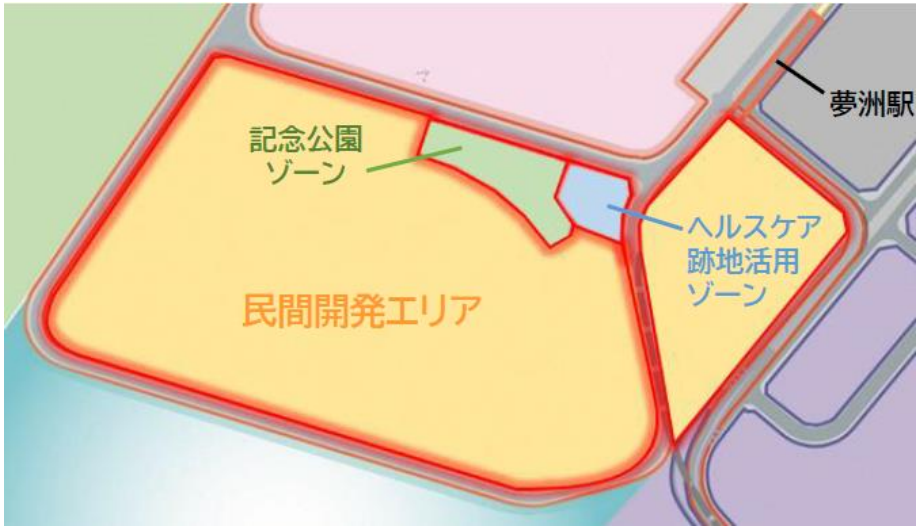
### 民間開発エリア（約42ha）

○ 大阪が強みを有する産業や研究機関の成果などのショーケース機能の導入
○ 最先端技術の実証・実践・実装
○ 都市データ等を活用したプロジェクトを創出するスマートプラットフォームの構築
○ 静けさの森の樹木を利活用した、まちづくりと一体となった緑地等の整備

### ヘルスケア跡地活用ゾーン（約1.5ha）

○ 先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能の導入と、これらに係る情報発信

＜第2期区域＞



# 6．万博レガシーの継承と発信

## （1）ハードレガシー

### ① 記念公園の整備(大屋根リングの利活用)

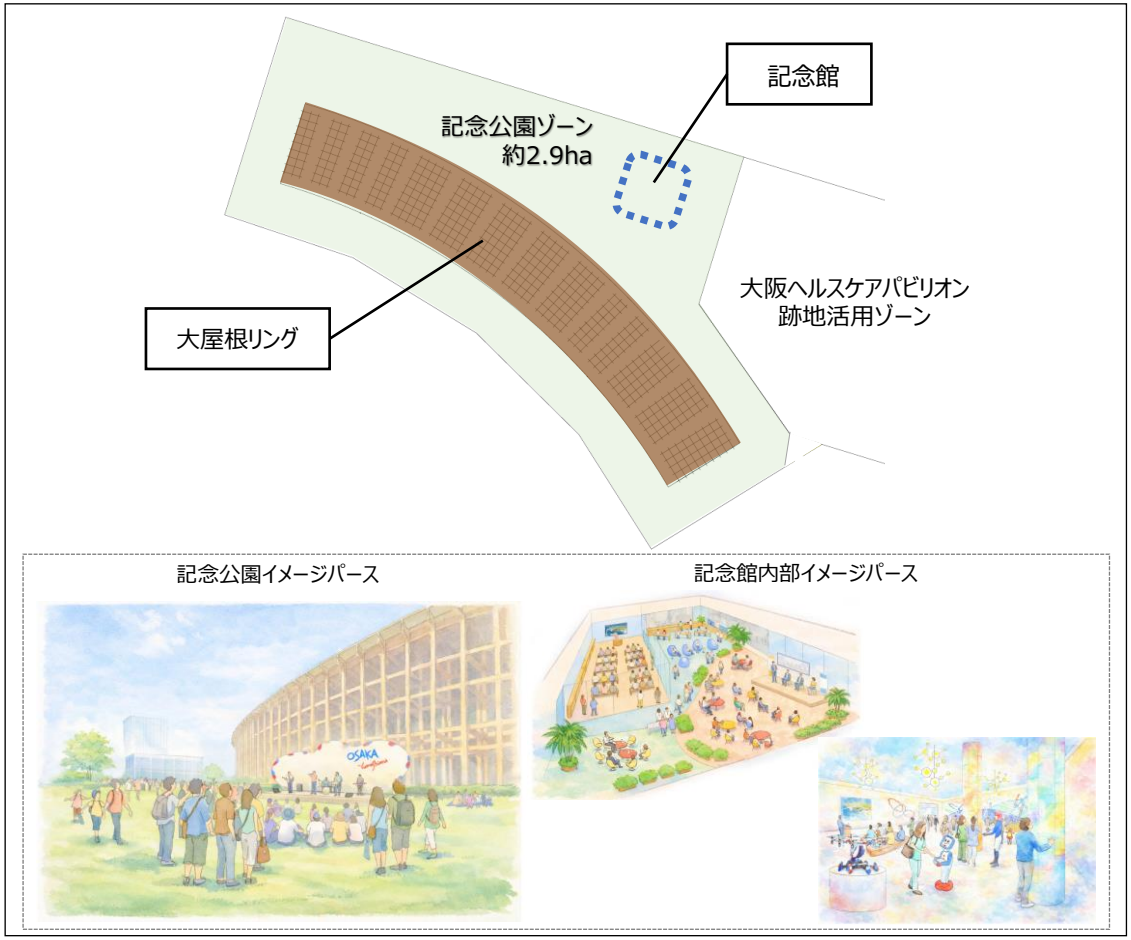
#### ○ 整備の方針

- 万博では、大阪・関西をはじめ日本中、世界中からの来場者とともに万博を共創しつつ、大屋根リングに体現される「多様でありながら、ひとつ」とのメッセージを世界に発信した。
- こうした万博の記憶を後世につなげるため、大屋根リングを一部残置し、その周辺エリアを記念公園として整備するとともに、万博で披露された最先端技術の発信や、ビジネスや文化等の交流を通じて地方創生や産業振興に取り組む。

#### ○ 整備の概要

| | |
|---|---|
| 記念公園 | • 大屋根リングと一体となったみどりに親しめる空間の整備<br>• 種別：緑地等<br>• 面積：約2.9ha |
| 大屋根リング | • 準用工作物として人が登れる形で利活用<br>• 最先端技術を活用し、当時の万博を体験<br>• 延長：約200m |
| 記念館 | • 万博の記憶や、万博で披露された最先端技術の情報発信<br>• ビジネスや文化等の交流の場の創出 |

記念公園の整備（大屋根リングの利活用 ）イメージ




【大屋根リングの概要】

○ 日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な貫（ぬき）接合に、現代の工法を加えて建築

○ 会期中は、会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用

・建物用途　歩廊（仮設建築物）
・建築面積　約60,000㎡（水平投影面積）
・長さ　約2,200m（内径：約615m、外径：約675m）
・幅　約30m・高さ12m（外側20m）

## （1）ハードレガシー

### ② 静けさの森の樹木の利活用

- 「静けさの森」は、樹木や草花などの「いのち」を迎え入れ、万博のテーマを体現する空間である。
- 令和６(2024)年９月より実施した「夢洲第２期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集」において、令和７(2025)年１月に決定した優秀提案では、概ね区域を変更せず樹木を再配置する提案、区域を夢洲駅南側に移設し樹木を再配置する提案があった。
- これらを踏まえ、今後の開発事業者募集において、開発事業者に求める計画提案のなかで、当該樹木を利活用した、まちづくりと一体となった緑地等の整備の提案を求めることとし、開発事業者が利活用できるよう、2025年日本国際博覧会協会が「静けさの森」の樹木を残置する。
- なお、「静けさの森」の樹木を利活用した緑地等の整備にあたっては、まちづくりの中で周辺施設との連続性や一体性等を確保するとともに、「静けさの森」の理念を踏まえたものとするなど万博レガシーの継承に留意する。

開発事業者に提案を求める
樹木の範囲（赤線内）

【静けさの森の概要】

〇会場の喧騒の中にあってひときわ静かで落ち着ける場所として整備
〇万博記念公園をはじめ大阪府内の公園等から将来間伐予定の樹木を移植するなどし、森を構成

・広さ　　約2.3ha
・樹木本数　約1,500本（アラカシ、イロハモミジ、エゴノキ、クヌギ、コナラ、ヤブツバキなど）
・水景施設　池、水盤

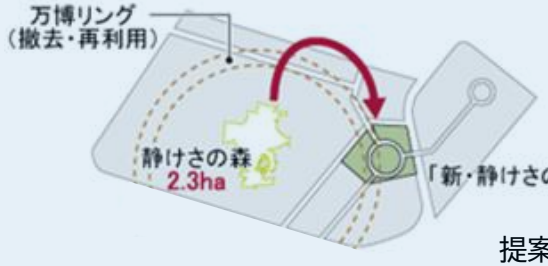
提供：２０２５年日本国際博覧会協会

【優秀提案の概要】

〇優秀提案１：概ね区域を変更せず樹木を再配置

提案内容等を参考に記載

〇優秀提案２：区域を移転し、樹木を移設




提案内容等を参考に記載

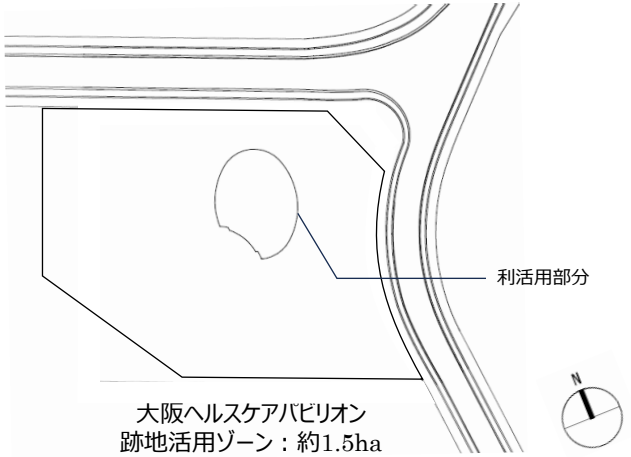
## （1）ハードレガシー

### ③ 大阪ヘルスケアパビリオンの利活用

- 万博において、府市は産・学・ 官・民の力を結集して、「REBORN」をテーマとする大阪ヘルスケアパビリオンを出展し、「いのち」や「健康」の観点から未来社会の新たな価値創造や、大阪の活力・魅力を世界へ発信した。
- こうした取組を、ハード・ソフト両面でレガシーとして後世に継承するため、大阪ヘルスケアパビリオンの一部を残置または敷地内で移築※1し、民間事業者所有のもと、大阪の強みを活かして展開する「先端医療」・「国際医療」・「ライフサイエンス」に係る事業を実施するとともに、これらに係る情報発信を行う。
- また、こうした取組は、建物の耐用年数等を踏まえてレガシーとしての継続性を確保するとともに、にぎわい創出の観点から、ホテル、オフィス、商業施設などの施設を隣接して設け、同施設と連携させながら一体的に運営することを基本とする。
- 上記の方針に基づき、建物の所有者である公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオンと連携し、事業者募集を実施する※2。

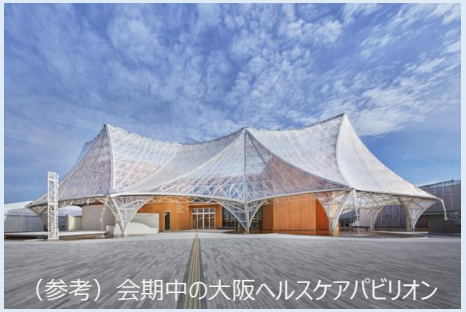
※1 既存建物を解体し、敷地内で復元すること
※2 令和８(2026)年1月に、先行して開発事業者の募集を開始している

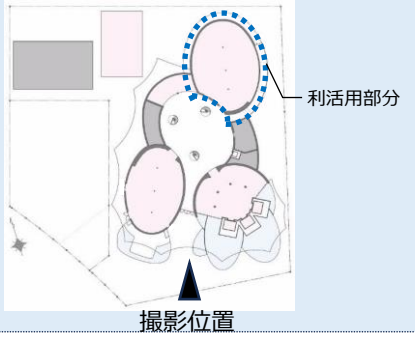
【利活用部分の配置イメージ】




【利活用部分の概要】

・鉄骨造2階建
・延べ面積 約2,000㎡(ヘルスケアパビリオンの一部)


（参考）会期中の大阪ヘルスケアパビリオン



# 6．万博レガシーの継承と発信

## （2）ソフトレガシー

- 大阪が強みを有する産業（健康・医療産業など）や研究機関の研究成果などに来訪者が気軽に接することができるショーケース機能の導入や、最先端技術の実践・実証の取組、様々な都市データの収集・構造化・オープン化・分析を行い、そのデータを活用したプロジェクトを創出するスマートシティプラットフォームの構築などの、万博理念を継承する取組を展開する。
- 「大阪スーパーシティ全体計画」における「夢洲コンストラクション」等のプロジェクトで実現した最先端技術やサービス等を、第２期区域の開発において展開する。

### ① 取組例

#### ⅰ．健康医療
- PHRデータの活用による健康プログラムの提案
- 体組成／健康状態自動測定

#### ⅱ．モビリティ
- 空飛ぶクルマの商用運航の実現可能性及び空飛ぶクルマの離着陸場の整備の検討
- 自動運転バス等の導入とともにモビリティ専用レーンの検討
- PRTシステムの導入
- MaaSの導入（交通、観光、宿泊など、より利便性の高いサービスの導入に向けた検討）
- EV・FCバスの導入やバス対応の充電設備、水素ステーションの整備といったゼロエミッションモビリティの推進

#### ⅲ．環境
- 太陽光発電（ペロブスカイト太陽電池等）、蓄電池、帯水層蓄熱、e-メタン活用、バイオガス発電等の再生可能エネルギーの利用
- 自立分散型電源
- フュージョンエネルギー、水素
- 雨水・中水利用

#### ⅳ．スマートシティ
- ホテル客室入退室やモビリティ予約者認証等の生体認証技術の導入
- デジタルツインの構築と広域データを活用した、交通流の最適化や、防災・環境のモニタリング及び情報発信、観光プランの提供等の都市のマネジメントを実践する。
- 高速大容量、低遅延、低消費電力の通信環境の整備・導入

#### ⅴ．夢洲コンストラクションの継承
- 建設工事現場内外の移動円滑化（データなどの活用による交通量予測に基づくピークシフト誘導　等）
- 建設工事・資材運搬円滑化（データ及びセンシングによる局所的な気象予測　等）
- 建設作業員の安全・健康管理円滑化（バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理　等）

# 7. まちづくりDX･GXの推進

【基本的な考え方】
- IoT、AI、ビッグデータ等の先端技術を利用し、安全・安心なまちの実現や都市機能の効率化、最適化をめざすとともに、環境技術の活用やグリーンインフラの整備等により、持続可能な社会の実現をけん引するまちづくりを推進する。

## （1） 安全・安心なまちの実現

- 災害時や危機事象発生時においても、速やかな災害対応による被害の軽減と迅速な復旧活動による経済活動の早期回復をめざし、デジタル技術やデータの活用、自立分散型電源の設置等により、災害レジリエンスの向上に努める。
- 第１期区域の開発事業者や行政等との連携・連絡体制を構築し、すべての来訪者及び夢洲で働く就業者の安全・安心の確保に取り組む。

## （2） 快適性・利便性の高いサービスの提供

- 「大阪スマートシティ戦略」の推進や「大阪スーパーシティ全体計画」の実現に向け、万博で活用した最先端技術、サービスの展開・高度化に取り組む。
- 開発自由度の高いグリーンフィールドという特性を活かし、回遊性に配慮した施設配置とするとともに、各種センサー類の設置等による地区内で得られる各種データの蓄積・活用を行い、最先端技術の提供などによる交通円滑化に資するサービス活用を推進する。
- デジタルツインの構築と広域データの活用などによる、交通流動の最適化や、防災・環境のモニタリング及び情報発信、観光プランの提供等の都市のマネジメントを実践する。

## （3） 環境技術を活用した持続可能なまちの実現

- 温室効果ガスの排出削減等によるカーボンニュートラルやゼロエミッションの実現に向け、万博会場における新技術の実証・活用の取組を継承し、実装につなげる。
- 環境問題を含む社会問題の解決を都市力・企業価値の向上につなげるとともに、持続可能な社会の実現に向け、グリーンインフラに関する取組を推進する。
（グリーンインフラの具体的導入例：緑地・緑道・水辺空間等の一体整備、コミュニティ広場整備、屋上緑化、雨水貯留機能を有する建築計画など）

# 8. エリアマネジメントの推進

【基本的な考え方】
- 第２期区域において、開発事業者が主体となり、「まちの活性化」、「賑わい創出」、「安全安心」などの取組により、まちを「育てる」仕組みを構築し、魅力的かつ統一感のあるまちづくりを継続的に推進する。

## 《エリアマネジメントの推進に向けた取組》

- 第２期区域において、長期にわたってエリア全体の価値や魅力向上に取り組み、まちを一体的に管理運営する組織（エリアマネジメント団体）を開発事業者が主体で組成する。
- エリアマネジメント団体においては、「まちの活性化」「にぎわい創出」「安全・安心」の取組を展開するとともに、スマートシティに関する取組を支えるデジタル技術の導入、万博レガシーを継承する実証・実装の先進的取組などを推進する。
- 第１期区域や、第３期区域（将来）の事業者と連携しながら、夢洲全体のエリアマネジメントに取り組む。

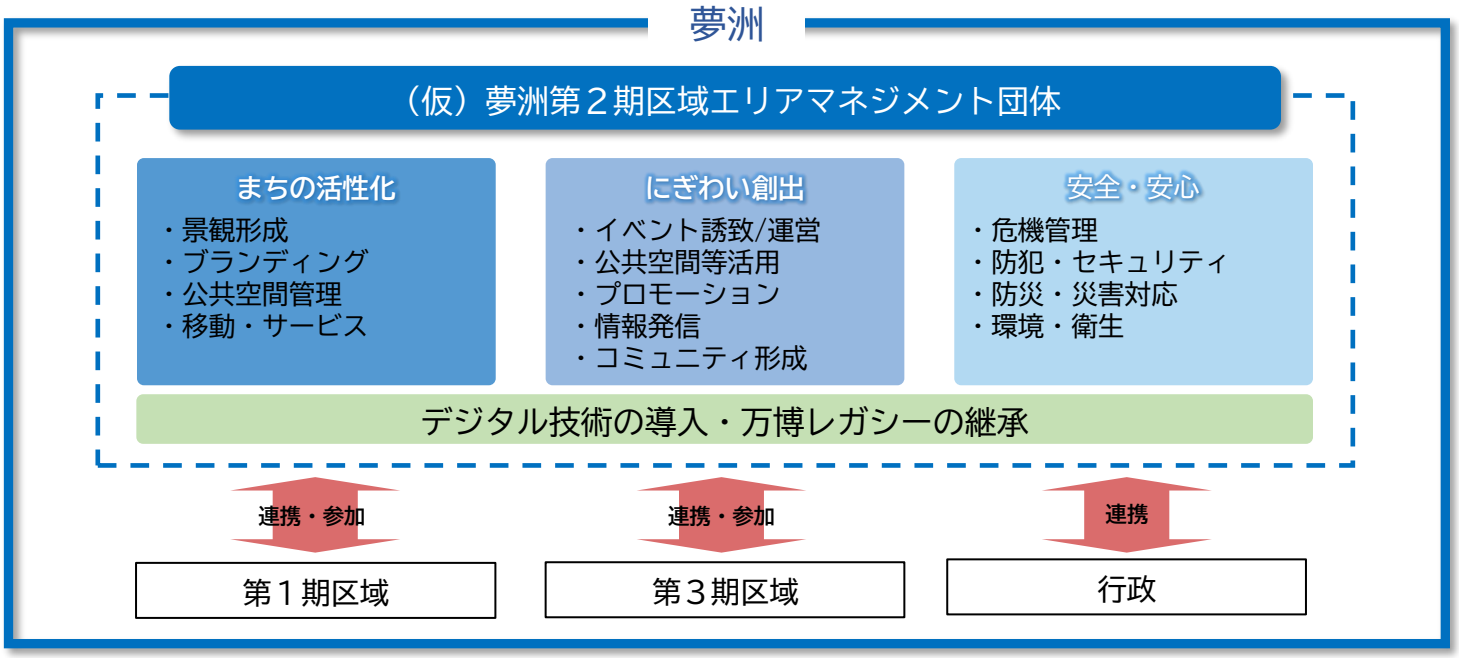



図　夢洲におけるエリアマネジメント組成のイメージ

# 参考資料

参考１

## ① 大阪のまちづくりグランドデザイン

『大阪のまちづくりグランドデザイン』において、夢洲・咲洲エリアのまちづくりは、『世界で存在感を発揮する拠点エリア』のとして位置付けられ、国際観光拠点の形成をめざすこととしている。

### 大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市　令和４(2022)年12月策定）

***戦略１）成長・発展をけん引する拠点エリアを形成***

***１）世界で存在感を発揮する拠点エリア***

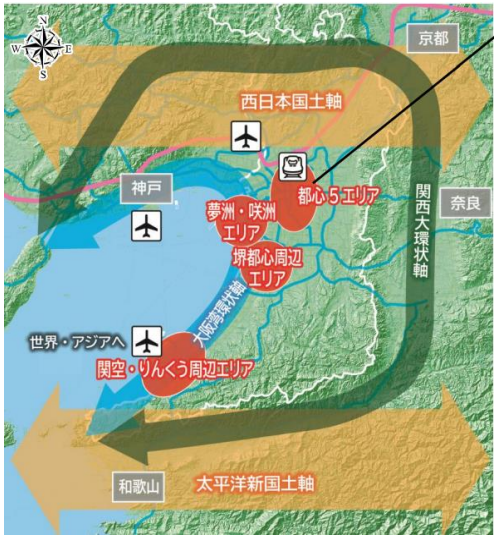
広域的な鉄道や高速道路などの都市基盤が充実し、高次都市機能が集積している大阪の「都心部」や、空港、港湾などから世界・アジアとつながる「ベイエリア」において、国際的な業務や観光、交流機能等を備えた、国内外から多様な人々を呼び込む、世界で存在感を発揮する国際競争力を備えた拠点エリアを形成

***夢洲・咲洲エリア***

・2025年に開催される大阪・関西万博のインパクトを活かした、夢洲での国際観光拠点の形成や、研究開発施設が集積する咲洲、スポーツ・レクリエーション施設を有する舞洲をはじめ、天保山・築港、此花西部、鶴浜などとの連携強化により臨海部全体の魅力向上を図るとともに、都心部との鉄道や道路、舟運などの多彩なアクセスを実現することにより、都心部と臨海部が両輪となって大阪の成長をけん引する国際観光・国際物流・国際交流及び研究開発拠点エリアの形成をめざします。

○ 国際観光拠点の形成
○ 大阪港における国際コンテナ戦略港湾としての機能強化
○ 人・モノ・情報の交流拠点の形成
○ スマートなまちづくり
○ 交通アクセスの強化・利便性の向上による周辺臨海部・都心部との連携強化

夢洲・咲洲エリア




世界で存在感を発揮する拠点エリア

出典：大阪のまちづくりグランドデザイン

参考２

## ② 大阪都市魅力創造戦略2025

- 「魅力共創都市・大阪 ～新たな時代を切り拓き、さらに前へ～」をめざす姿として、３つの基本的な考え方のもと、10のめざすべき都市像を定め各種施策を推進する。夢洲においては、10のめざすべき都市像のうち、「大阪ならではの賑わいを創出する都市」として、「世界第一級の文化・観光拠点の形成・発信」を図ることとしている。

### 大阪都市魅力創造戦略2025 （大阪府・大阪市 令和３(2021)年３月策定 令和５(2023)年、６(2024)年一部改訂）

重点取組の１つとして「世界第一級の文化・観光拠点の進化・発信」に取組む。

*＜大阪ならではの賑わいを創出する都市＞*

世界第一級の文化・観光拠点の形成・発信

・IRを契機とした夢洲における国際観光拠点の形成

出典：大阪都市魅力創造戦略２０２５

## ③ 大阪市未来都市創生総合戦略（令和６(2024)年度～令和10(2028)年度）

- 「大阪市未来都市創生総合戦略」では、基本目標のひとつとして「魅力と活力あふれる大阪をつくる」を位置付けており、その主な事業として、「新たな国際観光拠点の形成に向けた夢洲まちづくりの取組」を行うこととしている。

### 大阪市未来都市創生総合戦略（令和６(2024)年度～令和10(2028)年度）【令和６(2024)年３月策定】

*＜基本目標＞*

①未来を担う人材を育成するとともに誰もが活躍できる社会をつくる
②健康で安心して暮らし続けられる地域をつくる
**③魅力と活力あふれる大阪をつくる** ⟶
④DXの推進を通じてそれぞれの幸せを実感できる都市への成長・発展につなげる

*〈基本目標の達成に向けた施策の柱建て〉*

◆大阪経済の活性化
・大阪・関西万博を契機として、大阪、関西の経済活性化を図るとともに大阪の都市魅力を全世界に発信する

*＜アクションプラン＞*

基本目標③ 魅力と活力あふれる大阪をつくる
具体的な施策：交流人口・関連マーケットの拡大によるビジネスチャンスの創出
主な事業 ： ・大阪夢洲でのIR実現 ・新たな国際観光拠点の形成に向けた夢洲まちづくりの取組

参考３

## ④ Ｂｅｙｏｎｄ　ＥＸＰＯ　２０２５

- 成長戦略「Beyond EXPO 2025」において、夢洲のまちづくりは、「大阪独自の魅力を発揮したワクワク・オモロいを掻き立てるエンタメ都市」や「成長を支える高度な都市機能を備えた都市」の施策に位置付け、国際観光拠点の形成をめざすこととしている。

### Ｂｅｙｏｎｄ ＥＸＰＯ ２０２５　～副首都として成長・発展をめざす万博後の成長戦略～　（令和８(2026)年３月）

**大阪独自の魅力を発揮したワクワク・オモロいを掻き立てるエンタメ都市**

**①夢洲の国際観光拠点化**

**・世界最高水準の成長型ＩＲの実現（夢洲第１期）**

⇒ 国際会議場や展示場、ホテル、レストラン、エンターテイメント施設、カジノ等で構成する世界最高水準の成長型ＩＲの2030年秋頃開業をめざす。世界最高水準の成長型ＩＲの実現を図ることで、大阪経済の更なる成長と観光や地域経済の振興を促進

**・万博の理念を継承した夢洲第２期開発**

⇒ 第１期区域と連動しながら相乗効果を高めるエンターテインメント機能やレクリエーション機能など多様な機能を有するとともに、万博の理念を継承する最先端技術等を体感できる環境整備などにより、国際観光拠点機能を強化

**成長を支える高度な都市機能を備えた都市**

**①夢洲まちづくり**

**・夢洲第１期開発（統合型リゾート（ＩＲ）を中心としたまちづくり）**

⇒ 国際会議場や展示場、ホテル、レストラン、エンターテイメント施設、カジノ等で構成する世界最高水準の成長型ＩＲが、2030年秋頃に開業をめざす

（主な施設内容）

- 世界水準のオールインワンＭＩＣＥ施設
- 日本各地に観光客を送り出す送客施設
- 国際的なエンターテインメント拠点をめざす来訪及び滞在寄与施設
- 大阪・関西・日本の魅力を創造・発信する魅力増進施設
- 利用者ニーズに対応した特色ある宿泊施設
- 世界最高水準の規制の下での公正・廉潔なカジノ施設

（懸念事項対策等のため大阪府・市が設置する施設）

- 警察署等の警察施設・消防出張所の設置（夢洲）
- 府域の依存症対策の拠点となる（仮称）大阪依存症対策センターの設置（府内の交通至便な場所に設置予定）

**・夢洲第２期開発（万博の理念を継承したまちづくり）**

⇒ 万博の理念を継承し、国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくりに向けて、夢洲第２期区域マスタープランを踏まえ、開発事業者募集を開始予定

（夢洲第２期区域マスタープランの主な内容）

| | |
|---|---|
| ・まちづくり方針 | エンターテインメントシティの創造（水・みどりと賑わい等が一体となった「非日常」を感じる空間の創出）、最先端技術の実証・実践・実装など |
| ・万博ソフトレガシーの継承 | 研究成果のショーケース機能、最先端技術の実践・実証、スマートシティプラットフォーム構築などの取組を展開 |
| ・万博ハードレガシーの継承 | 大屋根リング、静けさの森の樹木、大阪ヘルスケアパビリオンの利活用 |
| ・まちづくりＤＸ・ＧＸの推進 | ＩｏＴ、ＡＩ、ビッグデータ等の先端技術を利用し、安全・安心なまちの実現や都市機能の効率化、最適化とともに、環境技術の活用やグリーンインフラの整備により、持続可能な社会の実現をけん引するまちづくりを推進 |
| ・エリアマネジメントの推進 | 開発事業者が主体となり、「まちの活性化」「賑わい創出」「安全安心」などの取組により、まちを「育てる」仕組みを構築 |

**・夢洲第３期開発（第１・２期の取組を活かした長期滞在型のまちづくり）**

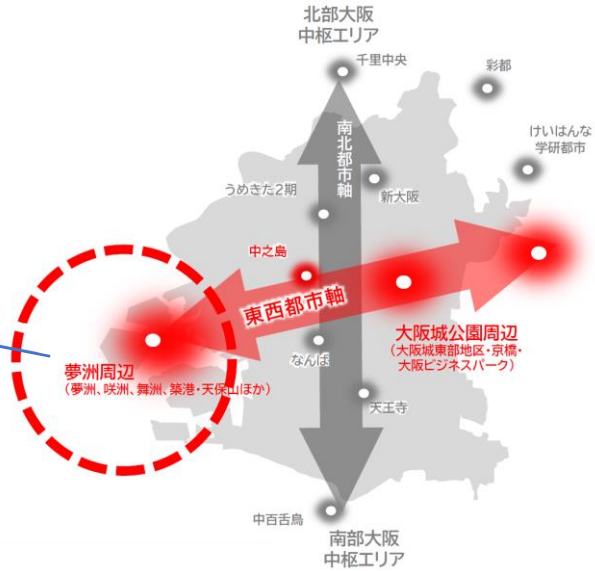
参考４

## ⑤ 大阪市内ベイエリアの将来のあり方に関する懇談会

**対象エリア**

・市内ベイエリアを「夢洲周辺地区」として打ち出し
・夢洲、咲洲、舞洲、築港・天保山、此花西部など

夢洲周辺の連携強化(イメージ)




### ⅰ．懇談会メンバー

- 関西経済３団体
- 大阪府
- 大阪市

### ⅱ．開催経過

・令和７(2025)年９月10日　　第１回　懇談会
・令和８(2026)年１月21日　　第２回　懇談会

参考４

## ⑤ 大阪市内ベイエリアの将来のあり方に関する懇談会

### ⅲ．懇談会での主な意見

（第１回）

- 市内ベイエリアは、ＵＳＪ、海遊館、インテックス大阪に加え、今後、夢洲で展開されるＩＲ、夢洲第２期区域に設置される機能等が相まって、世界屈指の集客エリアとすること。
- 観光都市の将来構想という点で、既存の拠点との融合も重要であり、ＩＲとＭＩＣＥに特定せず広くベイエリアを俯瞰して、国際観光都市を目指すべき。
- ベイエリア全体像に係るビジョンとブランディング戦略が重要であり、官民一体となった継続した検討の場の設置が必要。
- 大阪は、関西、西日本の広域観光・広域物流の拠点であることを踏まえ、アクセス向上や交通ネットワークの整備を進めることで観光誘致を強化すべき。
- 大阪は未来社会の実験場という万博の開催地であり、やってみなはれの精神が息づくまちである。チャレンジしたい企業、人材が国内外から大阪に呼び込む形で大阪の活性化に寄与することが重要。
- 夢洲第２期区域については、万博の理念を継承し、ハードレガシーとして大屋根リングを原型に近い形で一部残置するとともに、その周辺に万博の記憶を後世につなげる機能や施設と、緑豊かな環境や憩いの空間を整備し、多くの人に開かれ環境に配慮したエリアとするべき。

（第２回）

- 夢洲全体で万博の記憶や成果を日本世界に向けて発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能を導入してくことを評価する。
- 夢洲第２期区域において、記念公園ゾーンとして、記念館を整備、管理、運営すること、大屋根リングの一部を残置するとともに、周辺エリアを公園等として整備・維持管理することについて、万博のレガシーの継承するうえで大変重要であり、前向きな姿勢だと認識している。後世に残るような施設や機能となることを期待している。
- 万博は非常に影響力のある世界イベントであり、開催地の夢洲は付加価値が飛躍的に上がっている。これを踏まえて、記念公園ゾーンや民間開発ゾーンは万博で生まれた価値・ビジネス・文化交流などの成果を継承するものとしてほしい。

参考５

## ⑥ 大阪のスーパーシティ構想

### スーパーシティ型国家戦略特区（令和４(2022)年４月）

- スーパーシティは、住民が参画し、住民目線での、未来社会の先行実現をめざすもの
- 国において大胆な規制改革と併せ、データ連携基盤を活用して複数分野の先端的サービスを提供する「スーパーシティ型国家戦略特区」を設け、令和４年４月に大阪府大阪市と茨城県つくば市が指定（全国で２か所のみ）

### 大阪スーパーシティ全体計画（令和４(2022)年12月）

「データで拡げる“健康といのち”」をテーマとして、２つのグリーンフィールドで３つのプロジェクトを展開

**〇２つのグリーンフィールド**

・夢洲
・うめきた２期

住民QoLの向上と都市競争力の強化をめざす

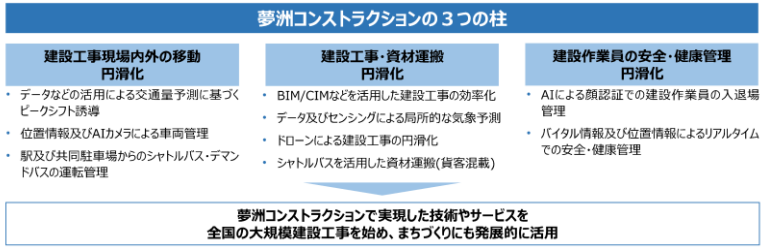
出典：大阪スーパーシティ全体計画

**〇夢洲での２つのプロジェクト**

2023年度～
　夢洲コンストラクション：３つの円滑化を推進
　「建設工事現場内外の移動、建設工事及び資材運搬、建設作業員の安全・健康管理」
2025年度
　大阪・関西万博
　　テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン
　　「いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ」

**〇夢洲コンストラクション**

- 夢洲では、大阪・関西万博の開催に向け、会場整備やインフラ整備などの建設工事を円滑に行うため、工事車両の渋滞対策や作業員の円滑な移動などに取組む。
- i-Constructionの取組をデータ（BIM/CIM含む）とデータ連携基盤の活用により一層発展させる。
- グリーンフィールドである夢洲を実証の場に、最先端技術の活用による建設工事の安全かつ円滑な実施を通して、QoLを高める技術の創出を推進し、将来のまちづくりに活かしていく。




出典：大阪スーパーシティ全体計画

**〇大阪・関西万博**

４つの特徴的な先端的サービス、多様な取組

出典：大阪スーパーシティ全体計画

参考６

## ⑦ 大阪市緑の基本計画〈2026〉

- 緑の基本計画とは都市緑地法第４条に規定されている「市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」のことであり、大阪市緑の基本計画〈2026〉は、都市計画事業に基づく都市公園の整備などを対象とするだけでなく、都市計画制度によらない道路や河川などの公共空間の緑化、下水道施設、学校などの公共公益施設の緑化、民有地における緑地の保全や緑化、さらには緑化意識の普及啓発などのソフト面の施策も含めた、都市のみどりに関する総合的な計画である。

### 大阪市緑の基本計画〈2026〉（令和７(2025)年11月）

■ 計画期間　　：2035（令和17）年まで（10年間）
■ 対象区域　　：大阪市全域（広域的なみどりの取組については、周辺都市とも連携を図る）
■ 緑化重点地区：新大阪・大阪地区、なんば・天王寺・あべの地区、大阪城周辺地区、御堂筋周辺地区、中之島周辺地区、夢洲・咲洲・舞洲地区

夢洲・咲洲・舞洲地区の基本方針

市内随一の豊かな自然と調和した
洲ごとの個性を活かしたみどりのまちづくり

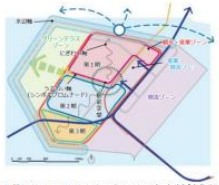
■夢洲・咲洲・舞洲地区の範囲

※ 主なみどりとしては、地区公園規模以上の都市公園や、「みどりのまちづくり賞」[出典 46] を受賞したみどりなどを掲載。

夢洲・咲洲・舞洲地区の個別方針

個別方針1 地区全体での豊かなみどりの保全・創出
（1）豊かなみどりを感じられる緑地等の保全・創出
（2）生物多様性や景観を意識した水辺のみどりの保全育成
個別方針2 洲ごとの個性を活かしたみどりの創出や活用
（1）【夢洲】今後の民間開発と協調した非日常感を演出するみどりの創出
（2）【咲洲】居住者や来訪者の幅広い利用に対応した多様なみどりの維持・創出
（3）【舞洲】広大な敷地を活用したスポーツやレクリエーションの場としての利活用

■野鳥園臨港緑地の生き物(左からオオルリ・アカテガニ・ホウロクシギ・ツクシガモ)



■夢洲におけるまちづくりの方向性[出典 52]

■大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域のイメージパース

■舞洲地区のまちづくり(ゾーニング)[出典 53]

■舞洲緑地

出典：大阪市緑の基本計画〈2026〉

参考７

## ⑧ 道路ネットワーク（広域道路ネットワーク）

- 近畿圏は高速道路ネットワークの整備が進んでおり、車（自家用車・バス等）による近隣府県市から大阪（夢洲）へのアクセス至便性が高い。
- 既存の高速道路ネットワークに加えて、淀川左岸線（２期）・淀川左岸線延伸部や大阪湾岸道路西伸部、新名神高速道路（高槻JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC）が現在事業中であり、今後さらなる広域的なネットワーク機能の向上が見込まれる。

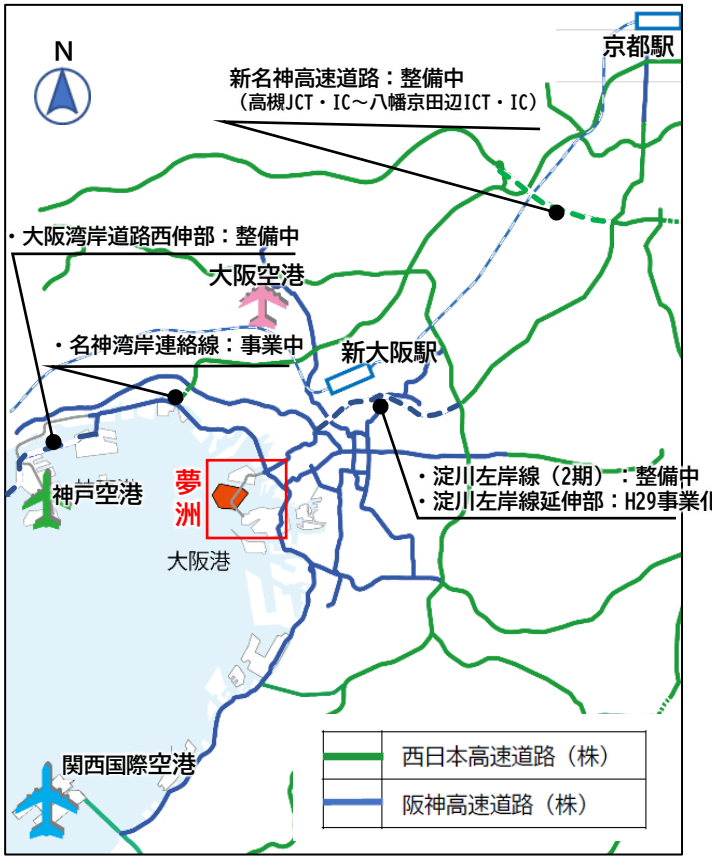
### ⅰ．高速道路ネットワーク

- 夢洲へは、阪神高速湾岸線、天保山IC又は南港北ICから10分程度でアクセス可能であり、高速道路からの利便性が高い。
- また、空港（関西国際空港など）など広域交通結節点と近接して高速道路ネットワークが構築されている。

### ⅱ．広域ネットワークの形成

・既存の高速道路ネットワークに加えて、現在、新名神高速道路（高槻JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC）、淀川左岸線（２期）、淀川左岸線延伸部、名神湾岸連絡線、大阪湾岸道路西伸部等が事業化され、これらの整備が完了することにより、大阪の広域的なネットワーク機能が向上する。

・特に大阪都市再生環状道路として位置づけられている淀川左岸線（２期）及び淀川左岸線延伸部が完了することで臨海部と内陸部の連携強化により夢洲へのアクセス性のさらなる向上が期待される。



参考８

## ⑨ 夢洲アクセス鉄道に関する検討会

- 夢洲における国際観光拠点の形成に向けたまちづくりの状況を踏まえ、夢洲への北側からの鉄道アクセスに係る検討を行うため、有識者や鉄道事業者等からなる「夢洲アクセス鉄道に関する検討会」を開催
- 検討会の意見を踏まえ、答申路線と検討路線（ＪＲ桜島線延伸及び京阪中之島線延伸）について、費用便益分析、収支、整備効果による優位性比較等を行い、検討路線が優位であることを確認（令和７(2025)年８月に検討結果公表）

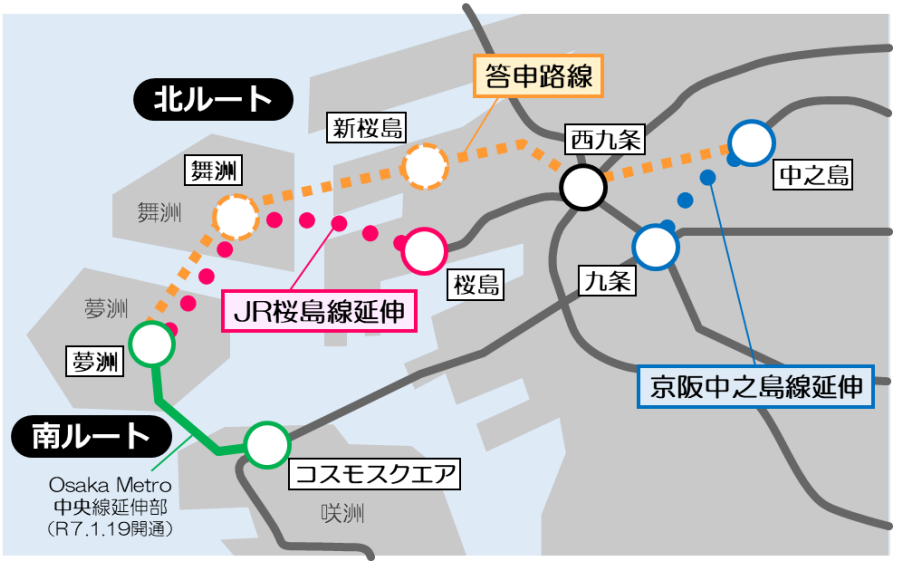
### ■ 検討対象路線

**１）答申路線※（中之島～西九条～新桜島～舞洲～夢洲）**

※「運輸政策審議会答申第10号（平成元年）」
・北港テクノポート線（コスモスクエア～夢洲～舞洲～此花方面）
「近畿地方交通審議会答申第8号（平成16年）」
・中之島新線延伸（中之島～西九条～千鳥橋～新桜島）

**２）検討路線**

- **ＪＲ桜島線延伸**（桜島～舞洲～夢洲）
- **京阪中之島線延伸**（中之島～九条）




### ■ 検討項目

- 答申路線と検討路線の優位性比較
- 今後の留意事項　など

### ■ 検討経過

令和６(2024)年１１月　６日　：　第１回検討会開催
令和７(2025)年　３月２６日　：　第２回検討会開催
　　７月２８日　：　第３回検討会開催

### ■ 検討体制

《 委　員 》関西大学　宇都宮浄人 教授
京都大学　松島格也　特定教授
鉄道事業者（西日本旅客鉄道㈱、京阪電気鉄道㈱、㈱大阪港トランスポートシステム、大阪市高速電気軌道㈱、阪神電気鉄道㈱）
大阪府・大阪市

《ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ》国土交通省（近畿運輸局・近畿地方整備局）

参考９

## ⑩ 夢洲第２期のまちづくりに向けたサウンディング型市場調査・民間提案募集

・大阪・関西万博開催の跡地となる夢洲第２期区域について、万博後速やかに活用できるよう、民間事業者の皆さまから広くご意見・ご提案をいただく、サウンディング型市場調査（マーケット・サウンディング）を実施

・下記のとおり、提案が11件あり、ホテル・商業・屋内屋外のエンターテイメント施設（アリーナ、劇場、野外ライブ会場、サーキット場など）・住宅といった提案があった

### 夢洲第２期のまちづくりに向けたサウンディング型市場調査（令和４(2022)年12月～令和５(2023)年７月）

**〇マーケット・リサーチ結果**

| | |
|---|---|
| 提　　案 | 11団体、11件の提案 |
| 提案団体 | 建設会社、不動産会社など |
| 提案概要 | 〇開発スケジュール<br>２期全体のまちづくり計画を策定した上、国際観光拠点のまちづくりを段階的な事業に進めていきたいとの提案があった<br><br>〇提案施設の用途<br>ホテル・商業・屋内外のエンターティメント施設（アリーナ、劇場、野外ライブ会場、サーキット場など）・住宅といった提案があった<br><br>〇基盤整備<br>観光外周道路の形状に関して、地下鉄の線路上部への整備やまちづくりにあわせた独自形状の整備の提案があった<br><br>〇関連事項<br>・まちの骨格となるオープンスペースの整備<br>・モビリティサービスの中核機能の整備<br>・まちの移動手段として、域内周回バス、マイクロモビリティ、ゴンドラ<br>・スマートなまちづくりを担うエリアマネージメント組織 |

参考１０

## ⑪ 万博閉幕後における大阪ヘルスケアパビリオンの利活用に関するマーケットサウンディング

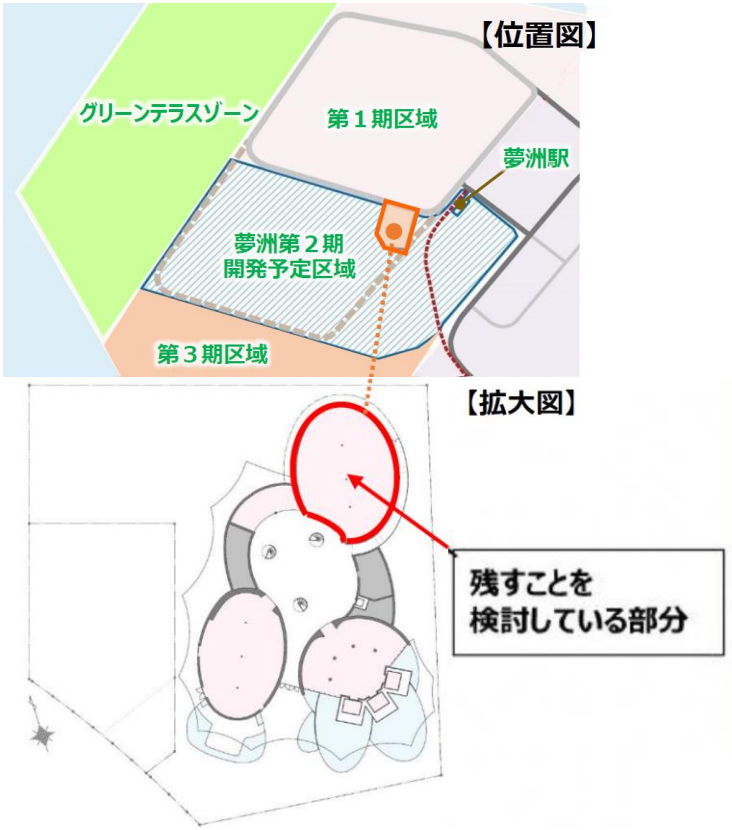
・大阪ヘルスケアパビリオンについては、令和４(2022)年３月に策定した「日本国際博覧会大阪パビリオン出展基本計画」において、建物の一部を残すこととしている。

・2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会では、万博閉幕後の建物を利活用する事業内容や事業条件を募り、最新の市場性を確認することを目的にマーケットサウンディングを実施した。

**万博閉幕後における大阪ヘルスケアパビリオンの利活用に関するマーケットサウンディング　（令和６(2024)年１月～４月）**

**〇マーケット・リサーチ結果**

| | |
|---|---|
| ヒアリング参加者 | ２者（開発事業者等） |
| 提案概要 | 〇活用する部分<br>・大阪ヘルスケアパビリオンの「残すことを検討している部分」を建物として残置<br>〇活用の用途<br>・最先端医療技術の情報発信を行う施設<br>・外国人観光客向けに予防医療を行う施設<br>〇その他<br>・提案の実現にあたっては、収益施設を隣接して設け、一体的に運営することにより、事業性を確保する必要があるとの意見あり<br>・周辺の道路計画等を踏まえた敷地の設定及び歩行者動線や眺望の確保など、夢洲第２期区域のまちづくりへの要望もあり |



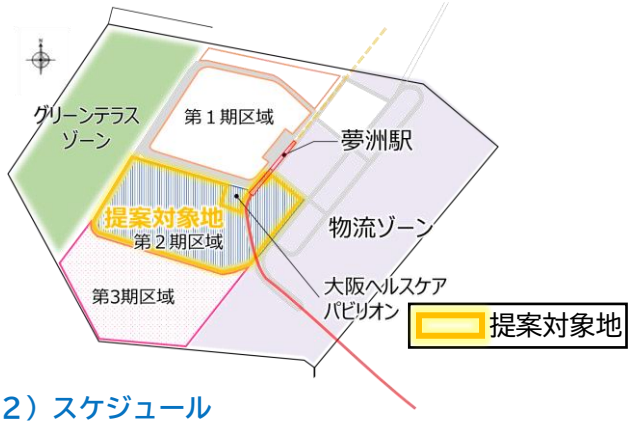
## 参考１１

### ⑫ 夢洲第２期区域マスタープラン策定に向けた民間提案募集

- 夢洲第２期区域については、約50ヘクタールという広大なエリアであることから、マスタープラン作成にあたり、民間事業者のノウハウを活かした実現性の高いものとするため、民間提案募集を実施。

#### １）対象エリア

・夢洲第2期区域（大阪ヘルスケアパビリオンを利活用するエリアを除く）




#### ２）スケジュール

・令和６(2024)年９月９日　募集要項の公表

・令和６(2024)年11月11日から15日　提案書の受付

#### ３）優秀提案の決定

・提案件数：３件
・優秀提案：２件　（最優秀提案については決定せず）
①優秀提案１
〇提案者：夢洲第２期区域開発基本構想検討会
構成員：株式会社大林組大阪本店（代表企業）
他６社＊提案者の意向により、一部非公開
②優秀提案２
〇提案者：夢洲まちづくり提案グループ
構成員：関電不動産開発株式会社（代表企業）
京阪ホールディングス株式会社
住友商事株式会社、株式会社竹中土木
南海電気鉄道株式会社
吉本興業ホールディングス株式会社

#### ４）優秀提案の概要

**優秀提案１（提案者：夢洲第２期区域開発基本構想検討会）**

【概要】国内外からの集客が見込まれる大型アリーナ、モータースポーツ関連施設に加え、車をテーマとしたアミューズメントテーマパーク、ラグジュアリーホテルなどの機能を複合的に導入

【パース】

【土地利用計画図】

**優秀提案２（提案者：夢洲まちづくり提案グループ）**

【概要】特徴的なラグジュアリーホテルやウォーターパークによる複合リゾート施設を中心とし、駅前においては賑わいを創出する商業機能などを複合的に導入

【パース】

【土地利用計画図】

参考１２

## ⑬ 夢洲第２期区域マスタープラン検討会について

### ⅰ．検討の目的等

《　検討会の目的　》

夢洲第２期区域のまちづくりの方針となる「夢洲第２期区域マスタープラン」（以下「マスタープラン」という。）を府市が策定するにあたり、外部有識者の意見を聴取するため、「夢洲第２期区域マスタープラン検討会」（以下「検討会」という。）を設置する。

《　意見を聴取する事項　》

（1）マスタープラン策定にかかる検討に関する事項

（2）その他、検討会の目的達成のために必要な事項

### ⅱ．開催概要

《令和６年度》

〇第１回マスタープラン検討会（令和６(2024)年12月23日）
「夢洲第２期区域マスタープラン素案」の策定方針　など

〇第２回マスタープラン検討会（令和７(2025)年１月22日）
「夢洲第２期区域マスタープラン素案」について　など

《令和７年度》

〇第１回マスタープラン検討会（令和８(2026)年１月７日）
「夢洲第２期区域マスタープランVer.3.0（案）」について　など

《令和８年度》

〇第１回マスタープラン検討会（令和８(2026)年４月28日）　書面開催
「夢洲第２期区域マスタープランVer.3.0（案）」について

参考１３

## ⑭ 大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会

### ⅰ．検討会メンバー

・2025年日本国際博覧会協会
・経済産業省
・大阪府
・大阪市
・日本経済団体連合会
・関西経済連合会
・大阪商工会議所
・関西経済同友会

※ 事務局：2025年日本国際博覧会協会

### ⅱ．開催経過

・令和７(2025)年５月２日　第１回　検討会
・令和７(2025)年６月３日　第２回　検討会
・令和７(2025)年６月23日　第３回　検討会
・令和７(2025)年９月16日　第４回　検討会

### ⅲ．第４回検討会での結論（検討会での総意）

・大屋根リングは「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表す大阪・関西万博会場のシンボルとなる建築物であり、レガシーをわかりやすく残すという観点から、第２期区域の北東部約200mを原型に近い形で残置することが望ましいとの結論を得た。
・今後、2025年日本国際博覧会協会が提供する大屋根リングの部材の状態に関するデータを大阪市が確認することを前提に、大屋根リングとその周辺エリアについては、大阪府・大阪市において万博を記念する公園・緑地等として整備、維持管理することを検討し、議会の議論を経て決定する。
・また、残置する大屋根リングとその周辺エリアの整備・維持管理に要する財源については、大阪・関西万博の会場運営費の剰余金が発生する場合には、その活用を検討するとともに、国の協力を得て地方創生交付金等の国の交付金や補助金の活用の検討、大阪府・大阪市の負担の検討、協力いただく個別企業を探すなど、関係者が真摯に検討し、確保する。

参考１４

## ⑮ 2025年日本国際博覧会　成果検証委員会

### ⅰ．委員会メンバー

＜委員＞
- 十倉 雅和　　２０２５年日本国際博覧会協会 会長 ＜座長＞
- 池坊 専好　　華道家元池坊 次期家元
- 五神 真　　理化学研究所 理事長
- 佐野 真由子　京都大学大学院 教授
- 西尾 章治郎　国際高等研究所 所長
- 藤本 壮介　　大阪・関西万博 会場デザインプロデューサー
- 藤原 紀香　　日本館 名誉館長
- 宮地 純　　リシュモンジャパン合同会社　カルティエ プレジデント＆ＣＥＯ
- 山極 壽一　　総合地球環境学研究所 所長

＜関係者＞
- 吉村 洋文　大阪府知事
- 横山 英幸　大阪市長
- 松本 正義　関西経済連合会 会長
- 鳥井 信吾　大阪商工会議所 会頭
- 小林 健　　日本商工会議所 会頭
- 國部 毅　　２０２５年日本国際博覧会協会財務委員会 委員長
- 石毛 博行　２０２５年日本国際博覧会協会 事務総長

（五十音順・敬称略）

### ⅱ．開催経過

- 令和７(2025)年12月25日　　第１回　成果検証委員会
- 令和８(2026)年２月27日　　第２回　成果検証委員会
- 令和８(2026)年４月27日　　第３回　成果検証委員会
- 令和８(2026)年６月５日～６月10日　第４回　成果検証委員会（書面開催）

参考１４

## ⑮ 2025年日本国際博覧会　成果検証委員会

### iii．委員会での主な意見

（第１回）

- 跡地開発で大屋根リングや静けさの森を残す方針はありがたい方針であるが、「場所の記憶」が大事。【藤本委員】
- 万博に来場できなかった人々にもレガシーを還元する仕組みが重要。【池坊委員】
- 多様でありながら一つというレガシーを作ったということを後世に残す上で、大屋根リングと静けさの森は欠かせないもの。【山極委員】
- ソフト面のレガシーも不可欠で、万博で披露されたライフサイエンスやカーボンニュートラル、空飛ぶクルマなどの新技術を社会実装するための仕組みが必要。【吉村知事】
- 大屋根リング約200mの残置と都市公園の整備は、レガシーを展開していく重要な役割を果たしていく。【横山市長】
- 万博で生まれた知や価値を散逸させず、外交・ビジネス・文化交流などを統合する「場」のあり方を検討すべき。【鳥井会頭】

（第２回）

- 夢洲が新たな交通の要衝の地である。【山極委員】
- 万博のレガシーを社会に根付かせていくためにはその理念を想起させるイベントの継続開催が不可欠。【西尾委員】
- 持続可能な未来社会の実現に向けて、万博の理念を継承し、その成果を関西、日本の成長につなげていくため、具体的な行動に移していくことを経済界の総意。【松本会長】
- 跡地開発は、夢洲２期と３期などに分かれているが、大屋根リングは３期区域にあったウォータープラザにオーバーラップして建っていたことから、２期と３期というエリアを越えて、全体像として跡地開発のビジョンを事業者に提案してもらうことも可能にするか、その方向で議論していくことなどをマスタープランに明記してほしい。【藤本委員】
- 剰余金をどう使うかの観点では、大屋根リングの一部残置、会場跡地でレガシーを発信する取組、最先端技術の実装化を後押しする仕組み、国際的なイベントや会議の継続開催が重要。【吉村知事】
- 夢洲２期区域においては、万博の成果を継承し、音楽、アート、先進技術といった多様な取組の展開と交流の促進を図るとともに、国内外への情報発信に取り組みたい。大阪府・市が中心となり、記念館や公園を整備し、周辺の民間開発エリアと合わせて万博のわくわく感を再現することで、万博のレガシーを日本、世界に発信する拠点としたい。【横山市長】
- 開催地である夢洲をレガシーの発展・継承の拠点にするべき。【十倉座長】

参考１４

## ⑮ 2025年日本国際博覧会　成果検証委員会

### iii．委員会での主な意見

（第３回）

- 万博跡地の記念館を訪れた人だけが見ることができるようなものではなく、国内外のどこからでも閲覧できるようにすべきであるとともに、そのような取組こそが万博の成果を広く共有し、次世代へ継承していく真のレガシーの形成につながるものと考える。【西尾委員】
- ソフトコンテンツは、来場された方々だけではなく、現地を訪れることができなかった皆様へも大阪・関西万博の記憶を共有するレガシーとして、非常に重要な役割を果たしている。【藤原委員】
- 大阪・関西としては、限られた剰余金を万博レガシー事業の財源としてしっかりと有効活用し、バランスも考えながらしっかりと我が国の成長発展につなげていくべく、引き続き国のコミットもいただきながら、関係者間で議論を進めていきたい。【松本会長】
- 万博のレガシーについて、ソフト、ハード様々あるかと思うが、この万博の意義、目的を問い続けていくことが非常に重要だと思う。【鳥井会頭】
- 今後の剰余金の活用にあたり、万博においても多分にあった、実験的で、チャレンジする精神、そしてすべてのステークホルダーに開かれた精神、アクセシビリティの精神を維持した形での実装に期待したい。【宮地委員】
- アフター万博は万博閉幕後からすでに始まっており、万博に素晴らしい思いを持ち、様々なものをさらに生み出していきたいと思う人が多くいる中で、そのパワー、熱量があるうちに、取組を進めていきたい。【吉村知事】
- 夢洲の「場の記憶」の継承・展開についても、非常に重要。夢洲全体で、官民が一体となって、万博の記録や成果を日本、そして世界へ発信する機能の導入を目指している。【横山市長】
- 夢洲の場の記憶をどう継承していくかについても、報告書にしっかり盛り込まれており、これを受け、今後の夢洲のさらなる発展を期待している。【藤本委員】
- 大阪・関西万博を通じて日本の国力を世界に向けて発信した成果を一過性に終わらせず、継続的な行動に繋げていくことが必要である。【小林会頭】

（第４回）

※ 夢洲第２期区域等に関する意見はなし

参考１４

## ⑮ 2025年日本国際博覧会　成果検証委員会

### ⅳ. 大阪・関西万博のレガシー展開にかかる基本方針（2025年日本国際博覧会成果検証委員会資料より）

- 万博の成果を一過性のものとせず、レガシーとして後世に引き継ぐために、(1)万博で創られた「つながり」の拡大・発展、(2)万博を契機とした創造活動の深化・展開、(3)夢洲の「場の記憶」の継承・展開、の３つの取組の柱でレガシー展開を進める。

**（１）万博で創られた「つながり」の拡大・発展** ※■双方にまたがるもの（剰余金以外の別財源により対応するものを含む）

- 万博では、多様な主体が連携した技術・社会実証や海外とのビジネスマッチングなどの経済面でのつながりに加え、来場者や運営管理者も個々に海外とのつながりを構築した。また都市間レベルでも新たな海外ネットワークを拡大した。これらをさらに発展させ、つながりを広げていく。

■最先端技術等の実装化・産業化
■JETROによる海外との連携・展開支援
■海外若手研究者や専門人材との知的交流を促進
■国際交流プログラム
■万博に関連した広域観光促進

**（２）万博を契機とした創造活動の深化・展開**

- シグネチャーパビリオンやテーマウィークなど、万博を契機に新たな理念や価値を創造した活動を、一過性のものとせず、さらにアップデートを加えながら継続していく。そして、デジタルコンテンツも整備・活用し、子どもたちなど将来世代や会場に足を運ぶことの出来なかった人々が、そうした活動を体験できる機会をつくっていくとともに、次期以降の万博に引き継ぎ、国際的にも発信を続ける。

■未来世代の価値体験機会を拡大
■全国各地でのイベント展開
■次期以降の万博出展・イベント等を通じた海外への展開
■将来の万博開催を見据えた国際社会へのレガシーの還元

**（３）夢洲の「場の記憶」の継承・展開** ※■大阪・関西ワイドで取り組むもの（剰余金以外の別財源により対応するものを含む）

- 夢洲の会場で育まれた共創の記憶と熱気は、多くの人々の心に深く刻まれている。万博の跡地として開発される「夢洲」において、記念公園ゾーンの整備やソフトコンテンツを活用したイベント等を通じて、こうした「場の記憶」を継承・展開し、観光誘客の拡大・地域振興にも繋げていく。
- 大阪府・大阪市により進める万博跡地（夢洲第２期のみならず、その周辺区域を含む）のまちづくりのベースとなるマスタープランにおいて、夢洲をレガシー継承の先導的な役割を果たす「場」として位置づけ、リングや静けさの森に象徴される「場の記憶」を継承し、夢洲全体で官民が一体となって万博の記録や成果を日本・世界へ発信する機能の導入を目指す。

■記念公園ゾーンの整備
■ソフトコンテンツの整備（万博跡地におけるレガシー発信等）
■記念公園での文化・芸術イベント
■万博に関連した広域観光促進

■グローバル・ナショナルワイドで取り組むもの　■大阪・関西ワイドで取り組むもの　■双方にまたがるもの